

2017（平成 29）年度
2 回生進級時アンケート報告書

京 都 大 学 国 際 高 等 教 育 院

目 次

1	調査の概要と目的	1
2	回答者の属性と回答率	2
3	志望意識と専門分野	4
4	学習意欲	9
5	大学教育での向上感	13
6	ILAS セミナーの受講	16
7	履修動向と成績（単位、GPA、TOEFL ITP）	20
8	成績評価への納得度	26
9	学生生活	29
10	学生の期待と実現度	37
11	教養・共通教育についての意見	46
12	まとめ	51
	【資料】平成 29 年度 2 回生進級時アンケート	53

1. 調査の概要と目的

2回生進級時アンケートは、2003年度入学者を対象として2004年4月に初めて行って以来、14年に亘って継続して実施し、学生の学習活動についての意識変化を追跡してきた。初期においては紙を媒体とした調査を行っていたが、2007年度からは京都大学で整備された教務情報システム（KULASIS）による回答方法を採用している。毎年の調査結果は国際高等教育院のホームページに掲載し、学内外に公表されている（URL：<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/introduction/inspection>）。

本調査の第一の目的は、学生が入学後1年間の大学生活を振り返って、京都大学の教育、特に教養・共通教育に対してどのように取り組み、どのような感想を抱いているか、について2回生進級時点での意識調査を行い、今後の京都大学の教育を改善・充実するための基礎資料にすることである。

本調査の第二の目的は、京都大学の教育活動に対する検証である。大学機関別認証評価 大学評価基準（第2期）では基準6において、「学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。」を測定することになっており、これを受けて京都大学の第三期中期計画 計画番号9において、「授業評価アンケートや、卒業生・修了生、就職先等関係者へのアンケート等の実施により学生等の意見を聴取し、教育改善に活用する。」としている。このためには、入学時から卒業時に至るいくつかの定点で、学生意識の変化を調査することが必要であり、本アンケートはそのような検証の一環として有用な質問を設けている。

調査対象： 学部新2回生（2016年度入学生）全員

実施期間： 2017年4月4日～6月30日

調査方法： KULASIS上でのアンケート回答方式をとっている。上記の調査期間に各学部新2回生が履修登録確認のためKULASIS にログインした際にアンケートへの協力を掲示し、回答フォームに入力するという方式を採用した。アンケート全文は末尾に添付している。

注1) 文理の区分について、本報告書において総合人間学部は集計の都合上、文系に含まれている

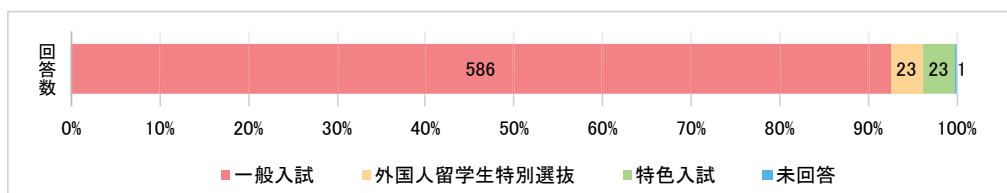
2. 回答者の属性と回答率

最初に回答者の属性に関する質問をし、アンケート全体での区分解析を可能にした。特に今年度から、学部別に加えて、一般入試入学者、特色入試入学者、留学生の区分を設け、必要に応じて解析区分として採用した。

Q.01 あなたが京都大学に入学した入試区分は次のどちらですか。

- ①一般入試 ②特色入試 ③外国人留学生特別選抜

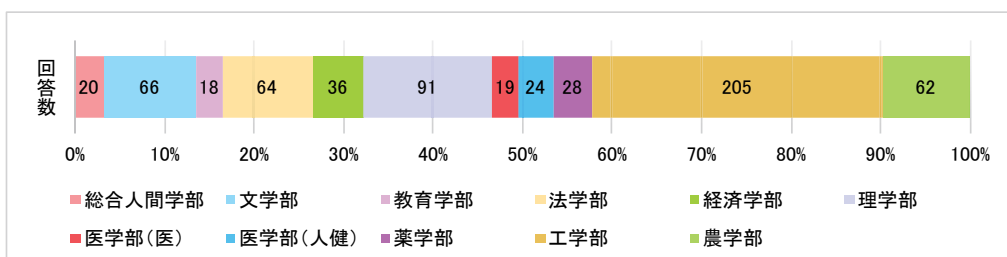
<図1>



Q.02 あなたの学部を教えてください。

- ①総合人間学部 ②文学部 ③教育学部 ④法学部 ⑤経済学部 ⑥理学部 ⑦医学部（医学科）
⑧医学部（人間健康科学科） ⑨薬学部（薬学科） ⑩薬学部（薬科学科） ⑪工学部 ⑫農学部

<図2>



注) 薬学部は集計の都合上、薬学科、薬科学科を合算している

<表1 学部別アンケート回答者数・回答率>

学部	2回生在籍者数(2017/5/1現在)			回答者数	回答率	文理
	計	男	女			
総合人間学部	127	93	34	20	15.75%	20.36%
文学部	223	131	92	66	29.60%	
教育学部	64	34	30	18	28.13%	
法学部	334	241	93	64	19.16%	
経済学部	254	205	49	36	14.17%	
理学部	312	282	30	91	29.17%	21.92%
医学部	254	138	116	43	16.93%	
薬学部	87	55	32	28	32.18%	
工学部	986	896	90	205	20.79%	
農学部	318	217	101	62	19.50%	
合計	2,959	2,292	667	633	21.39%	

学部別のアンケート回答者数ならびに回答率を表1に示す。残念ながら再々KULASISにて回答を促したにも関わらず、本年度の回収率は21.4%(633名)となり、昨年度の24.7%より低下した。この状況はデータの信頼性という観点、さらには教育改善への取組という意味においても大いに問題であり、来年度に向けて抜本的な改善策を講じる必要がある。

<表2 学部別アンケート回答率の変遷>

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	(*)平均回答率
総人	30.1%	30.6%	36.7%	57.8%	59.2%	48.0%	54.5%	37.7%	22.5%	34.7%	20.0%	31.2%	15.7%	22.3
文学	26.9%	25.6%	28.6%	50.5%	50.2%	49.8%	49.8%	41.3%	23.7%	30.4%	29.8%	28.9%	29.6%	29.4
教育	34.9%	29.2%	35.5%	37.7%	37.7%	44.3%	42.6%	32.8%	23.3%	26.2%	22.6%	17.7%	28.1%	22.8
法学	19.3%	16.8%	30.4%	44.1%	44.4%	42.6%	42.4%	30.2%	17.8%	31.7%	25.9%	18.8%	19.2%	21.3
経済	14.8%	12.9%	25.4%	37.3%	36.3%	37.5%	42.3%	44.8%	21.3%	31.0%	24.6%	19.8%	14.2%	19.5
理学	30.1%	29.9%	38.1%	49.4%	50.2%	58.0%	53.3%	45.9%	29.9%	35.2%	33.2%	28.8%	29.2%	30.4
医学	39.7%	25.7%	20.1%	33.3%	37.2%	34.6%	35.3%	32.7%	15.9%	26.4%	22.1%	21.3%	16.9%	20.1
薬学	25.8%	19.1%	35.6%	55.2%	57.8%	51.8%	52.3%	56.0%	30.5%	50.6%	34.5%	39.3%	32.2%	35.3
工学	74.7%	33.7%	35.5%	45.6%	45.2%	44.5%	50.3%	41.5%	23.2%	36.6%	23.4%	25.4%	20.8%	23.2
農学	19.5%	23.8%	34.1%	45.2%	46.1%	46.7%	50.2%	39.6%	26.6%	34.2%	32.8%	23.4%	19.5%	25.2
全体	41.8%	26.5%	32.2%	44.9%	45.5%	45.2%	47.7%	40.1%	23.1%	33.9%	26.4%	24.7%	21.4%	24.2

(*1)2015年～2017年の3年間の平均提出率

(*2)黄色は回答率上位2学部、青は回答率下位2学部

表2には、2005年度(平成17年度)以降の学部別アンケート回答率の変遷を示した。最近3年間の平均回答率を見ると、30%程度と比較的高い学部(薬学、理学、文学)から20%程度の低い学部(経済、医学、法学)があり、全体、文系、理系として集計するときは、回答率の差により影響を受けることに留意されたい。

3. 志望意識と専門分野

大学はホームページやパンフレット、オープンキャンパス等のさまざまな媒体により、各学部の学術分野、教育内容、学生生活等を広報し、入学者に期待する資質をアドミッションポリシーとして公開している。入学試験という関門を通過して京都大学の各学部に入学者は自らが志望する分野を選択しているはずであるが、将来の活躍分野をどこまで具体的に意識しているか、またそれが学習の動機付けに結びついているか、は入学後の教育効果を大きく左右するものと思われる。つまり、

志望 → 学習意欲 → 学習行動 → 学習成果 → 向上感（満足度）

の正の連鎖を期待する。一方、その志望意識とこれから学ぶことになる専門分野との一致度が良くない場合は、負の連鎖を起す恐れがある。アンケートの初めにこの重要点について Q.03～Q.06 で把握し、以後の学習行動や学習成果との相関を考察した。

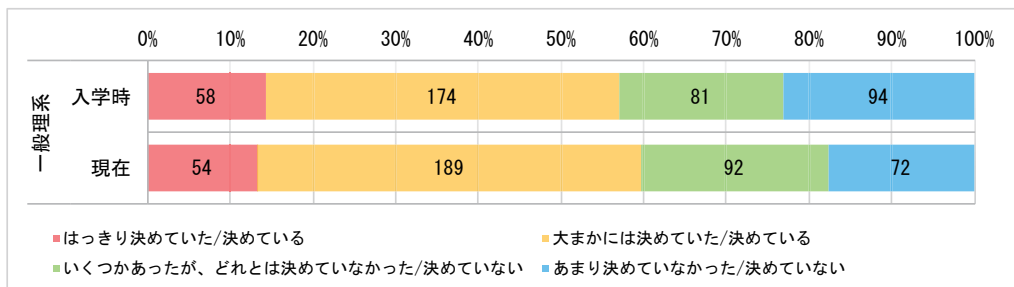
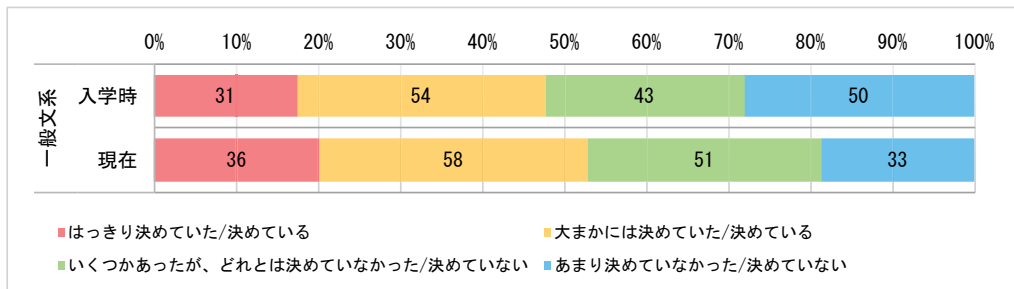
Q.03 あなたが入学したとき、自分が将来活躍したい分野（希望分野）を決めていましたか。

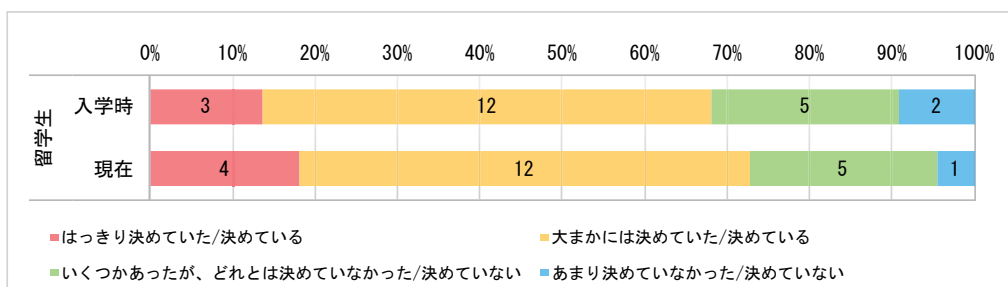
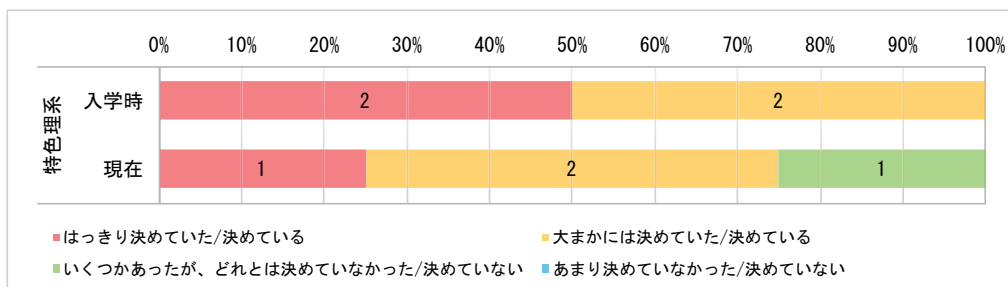
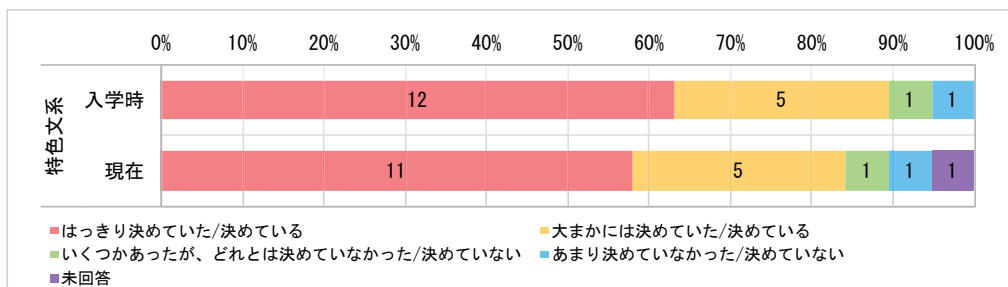
- ①はっきり決めていた ②大まかには決めていた ③いくつかあったが、どれとは決めていなかった
④あまり決めていなかった

Q.04 今現在、自分が将来活躍したい分野（希望分野）を決めていますか。

- ①はっきり決めている ②大まかには決めている ③いくつかあるが、どれとは決めていない
④あまり決めていない

<図3 志望意識・入試区別>





Q.03 と Q.04 は入学時と1年後の現在で、志望意識を尋ねた質問である。平均として、文系では約20%の「はっきり決めている」を含む約50%の学生が将来活躍したい分野を「(大まかには) 決めている」のに対し、理系では約60%になっている。また、約20%は「あまり決めていない」と答えている。専門分野の中で具体的な活躍分野がイメージできていないということかも知れないが、専門分野そのものに志望意識をもてない場合は、今後の勉学のモチベーションを保てるかという不安が残る。この点は Q.06 で確かめることになる。

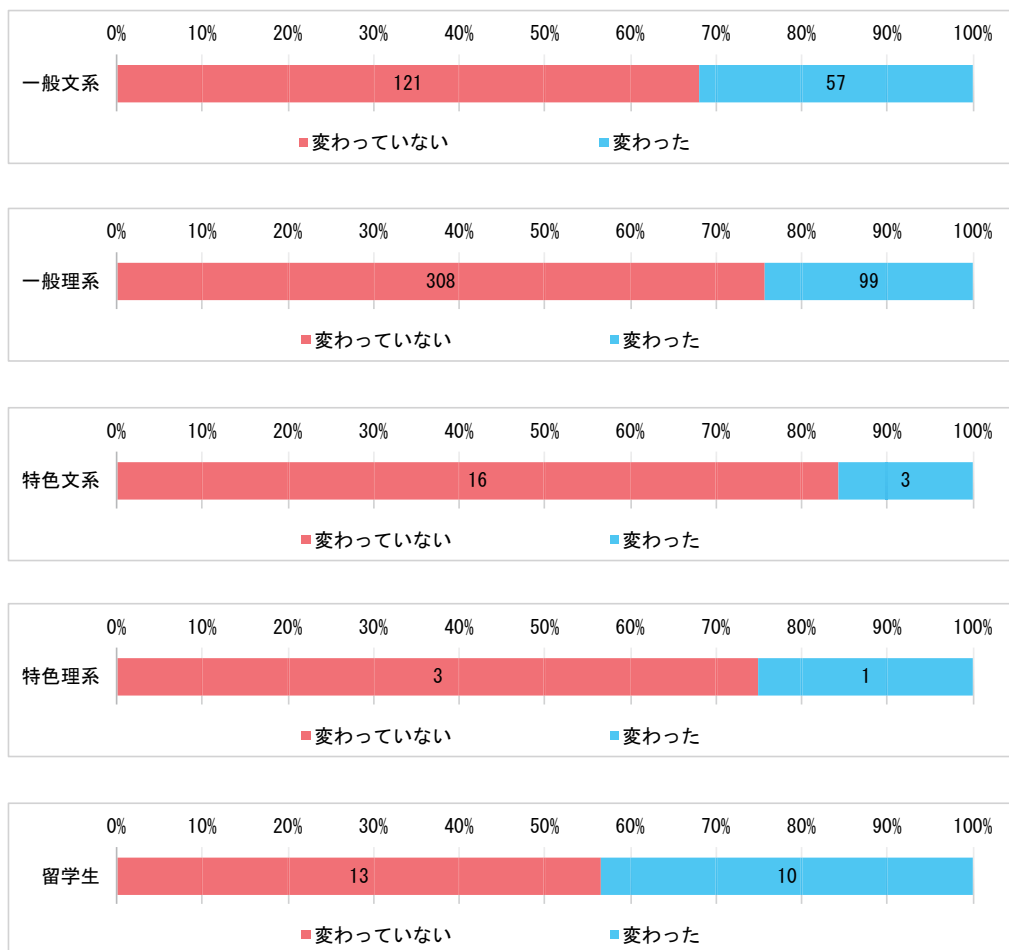
Q.03 と Q.04 の比較により、全体として、1年後の現在の方が「はっきり決めている」と「大まかには決めている」の回答合計が(文系: 48→52%、理系: 58→60%)増加し、「決めていない」が(文系: 29→19%、理系: 22→18%)と減少していることは、入学後に次第に志望意識が明確になるという好ましい傾向を示している。

一般入試と特色入試の入学者を比較すると、「(大まかには) 決めている」の比率が特色入試文系では大きくなっており、特色入試制度の趣旨を反映した結果である。ただし、特色入試理系では回答数が少なく、統計的に有意な結果とは言い難い。

Q.05 入学してから現在までに、その希望分野は変わりましたか。

①変わっていない ②変わった

<図4 希望分野の変化・入試区分別>



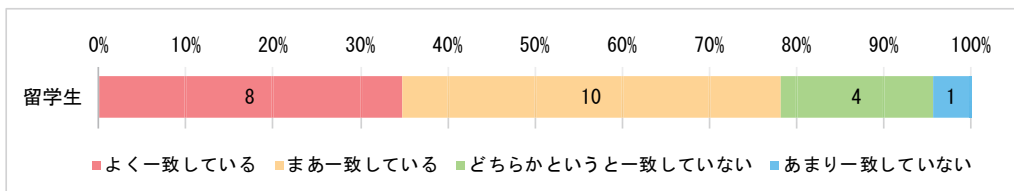
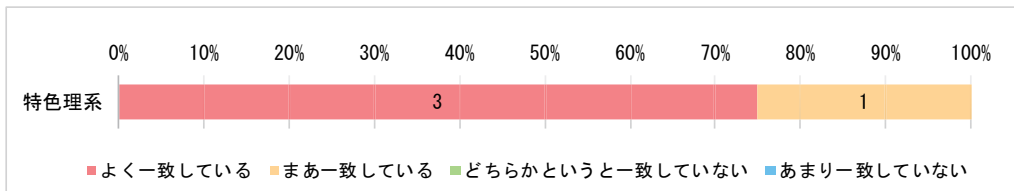
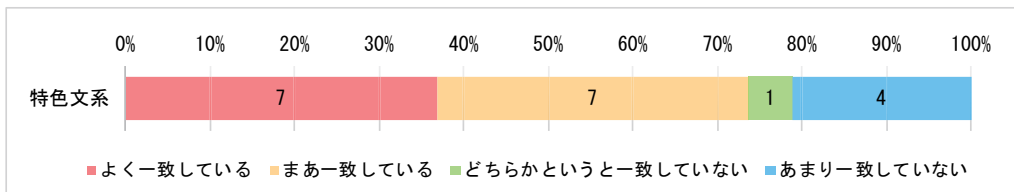
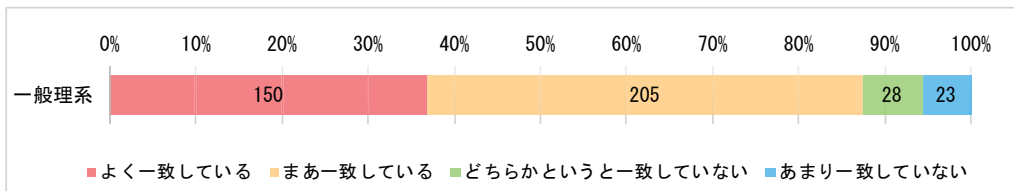
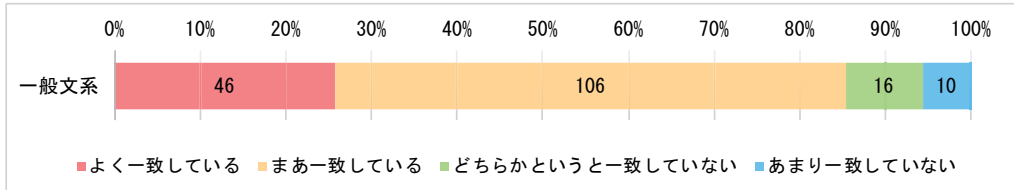
Q.05 では、1年間の大学生活を経て、志望分野が変化したかどうかを問うている。入学時に活躍したい分野を決めていると答えた学生が多い特色入試の区分では、「変わった」と答えた学生の比率は少ない。一方、一般文系の区分では、約30%の学生が「変わった」と答えている。文系学部では、将来の活躍分野に多様性がより大きく、学生が1年間の学部教育や学生生活を過ごす間に次第に将来の方向性を定めてきたように解釈される。

同様に留学生の区分でも、「変わった」と答えた学生の比率が相対的に大きい。来日してから多くの情報を得て、将来に向けたイメージが浮かび易くなったものと推察される。

Q.06 現在のあなたの希望分野と学部でこれから学ぼうとする専門分野は、どの程度一致していますか。

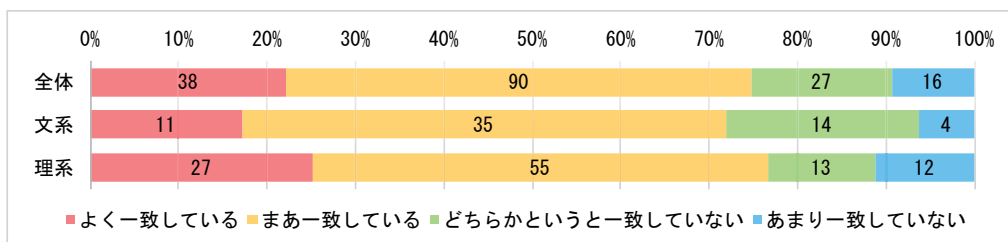
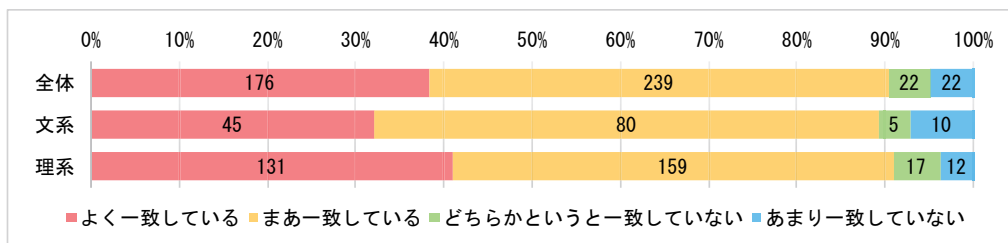
- ①よく一致している ②まあ一致している ③どちらかという一致していない ④あまり一致していない

<図5 希望分野と専門分野の一致度・入試区分別>



1年間の学習経験と大学生活を経て、自らの希望分野とこれから学ぼうとする専門分野との一致度について学生がどのように思っているか、を尋ねた。この段階で「どちらかという一致していない」、「あまり一致していない」は好ましくない回答であるが、一般入試の文系・理系ともその比率は10数%にとどまり、大半の80%を超える学生が「よく一致している」、「まあ一致している」と回答している。回答数が少ないため信頼性に欠けるが、特色入試文系の区分で「一致していない」の比率が多くなっていることが気がかりである。

<図6 上：希望分野が「変わっていない」と回答した学生、下：「変わった」と回答した学生>



次に、Q.05 で希望分野が「変わっていない」と「変わった」と答えた学生の区分について一致度の解析を行った。

「変わっていない」と答えた学生の専門一致度は高く、90%に達している。一方、「変わった」と答えた学生の区分でも「一致している」の回答が70%以上であることから、より一致度が良くなる方向に学生の意識が変化していることを示している。

4. 学習意欲

Q.07 入学当初から現在までに、あなたの学習意欲はどのように変化しましたか。各時期について、次の5つから選択してください。なお、この質問は Q.7～Q.11（入学当初、前期半ば、後期開始、後期半ば、現在）まであります。

<入学当初の時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.08<前期半ばの時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.09<後期開始の時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

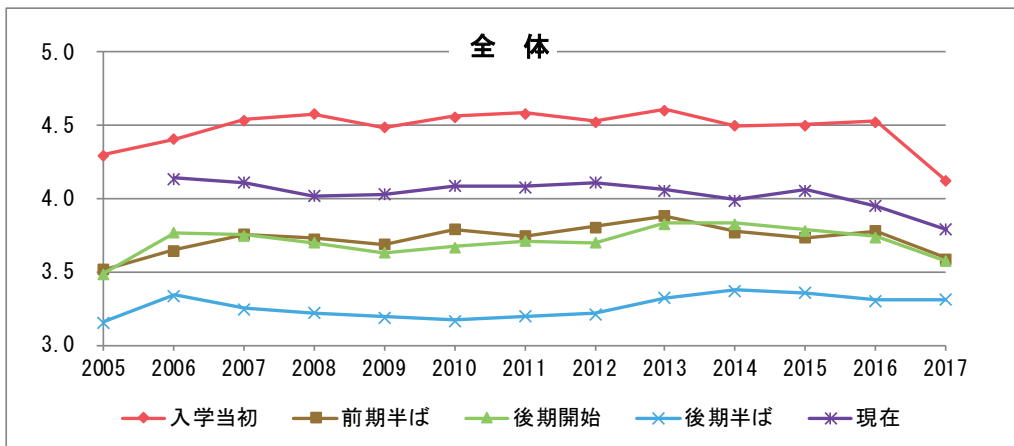
Q.10<後期半ばの時期>

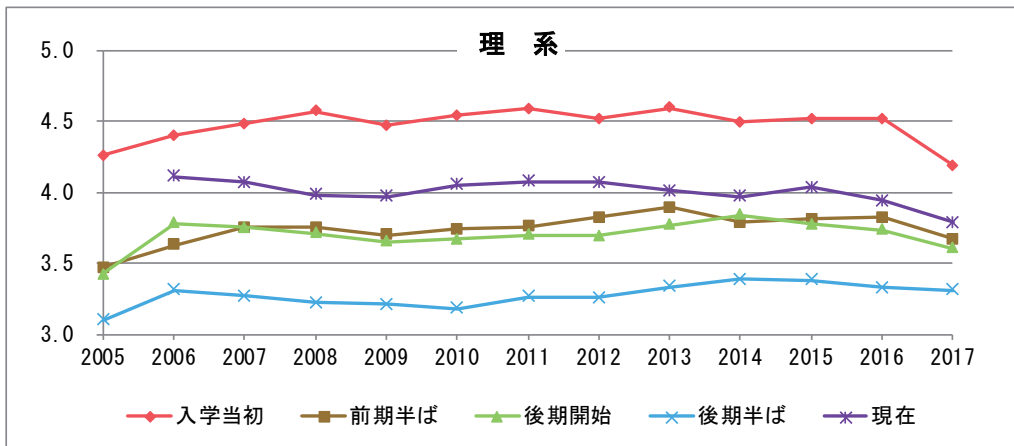
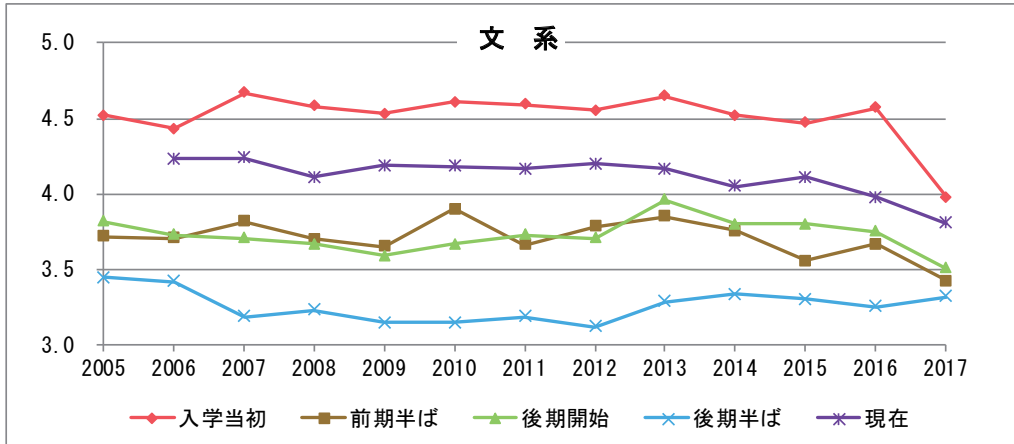
- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.11<現在>

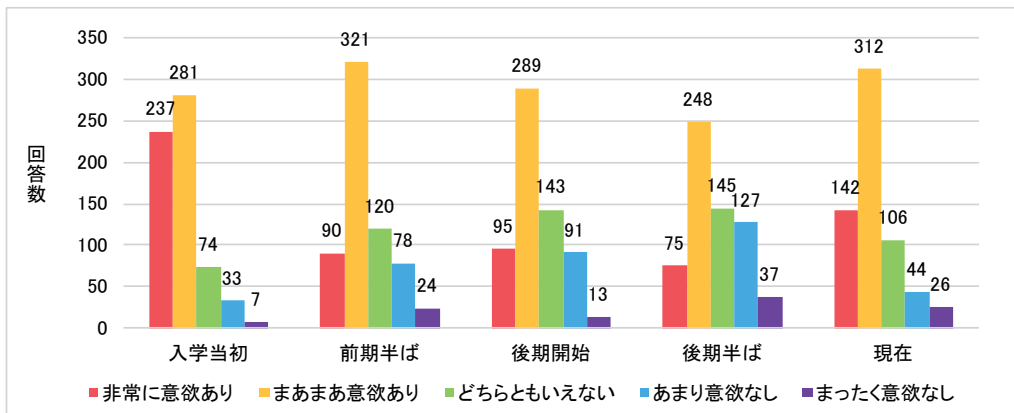
- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

<図7 学習意欲の経年変化（2005-2017年）>





< 図 8 学習意欲の変化 回答分布 (2017年：全体) >



学習意欲については、これまでのアンケートでも同じ質問をして継続的に調査している。経年変化を見るために、学習意欲を数値化してその平均点を各時期（入学当初、前期半ば、後期開始、後期半ば、現在）についてプロットした。

数値化については、「①非常に意欲あり」を5とし、最後に「⑤まったく意欲なし」を1とした。

入学当初の高い学習意欲から、次第に低下して後期半ばで底になり、2回生新学期で回復するという傾向は長年同じである。また、文系、理系で見てもその数値に大きな変化はない。しかしながら今年に関しては、明らかに入学当初の値が前年、前々年よりも低下しており、その影響が2回生新学期にも及んでいる点は憂慮される。文系・理系で同じように低下しているが、文系で特に顕著である。その理由は不明であるが、前回までこの質問が Q.01 であったのに対し、今年から Q.07 となったことが回答選択に影響しているかもしれない。また、昨年までは学生が回答するに当たり自身が入学時に記入した抱負や期待を読む欄を設けていたので、回想効果があったものと思われる。しかし回答形式上の理由ではなく、実際に学生の学習意欲に低下傾向があるのであれば重要な問題であることから、真の原因究明のための継続した調査が必要である。

<図9 学習意欲の変化・全体比率 上：2016年度、下2017年度>

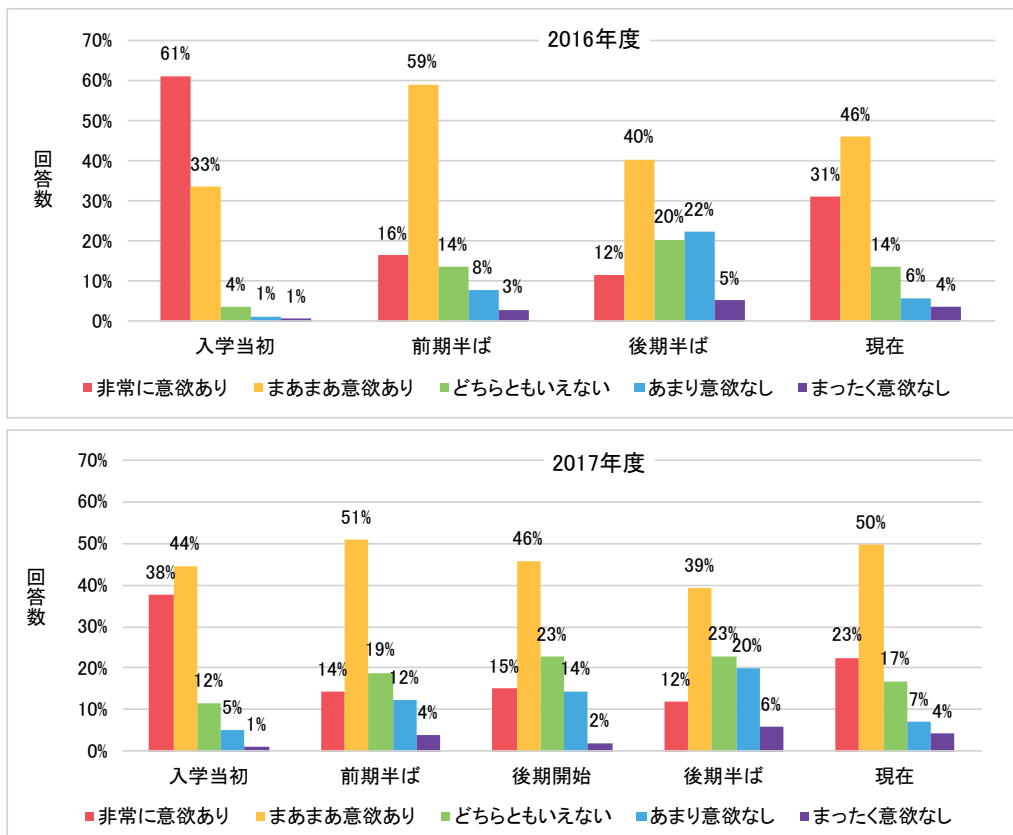
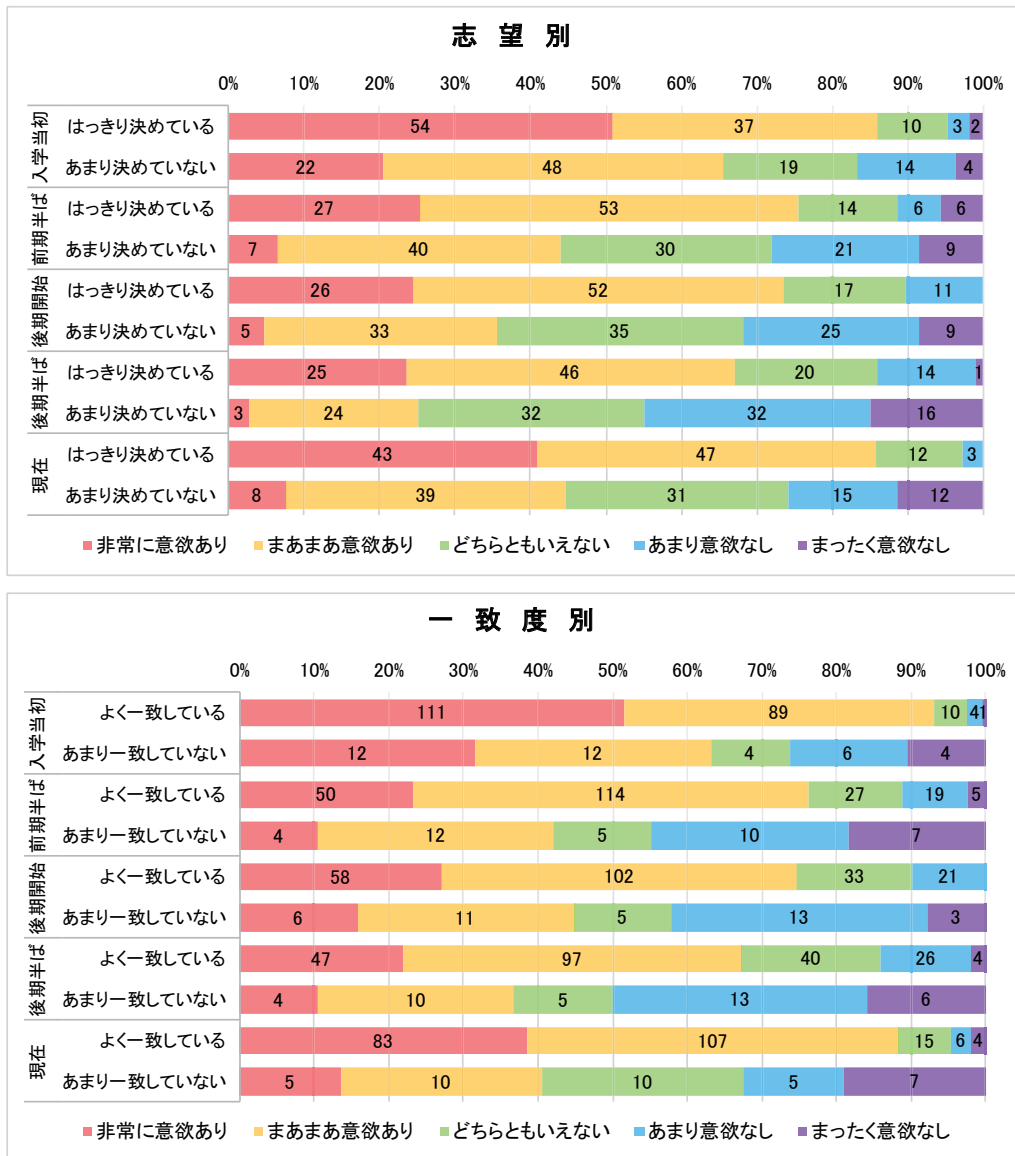


図9は昨年の意欲分布と今年の分布を比較して表示している。明確な差が入学当初に表れている。つまり昨年は「非常に意欲あり」が61%を占めたのに、今年は38%に過ぎない。

<図10 学習意欲の変化 上：志望別 下：一致度別>



Q.04で「はっきり決めている」と「あまり決めていない」の区分と、Q.06で「よく一致している」と「あまり一致していない」の区分で、学習意欲の変化を表示した。それぞれ志望意識の有無、希望分野と専門分野の一致度が、学生の学習意欲にどの程度の影響を与えているかを検討するためである。

入学後のどの時期においても、志望意識の有無により学習意欲に明確な差がでていいる。一致度の良否においても学習意欲の差は明白である。特に、「あまり意欲なし」、「まったく意欲なし」の比率が志望意識や一致度が悪い場合は大きく増加する。先に懸念したように、志望 → 学習意欲の悪循環を示す結果である。後述するように、学習意欲の低下は大学生活全般に波及することであり、今後とも注視して対策を講じていく必要がある。

5. 大学教育での向上感

入学後1年間の大学での授業や活動を経て、学生が自己能力の向上についてどのような意識をもっているかをいくつかの要素能力について質問した。ここで「専門知識の向上」は、全学共通科目や教養教育の範囲ではないので除外し、それ以外の「人間社会や自然についての幅広い視野と教養」、「問題を発見し、論理的に解決法を考える力」、「自分の考えを表現し、相手の意見を理解するコミュニケーション能力」、「自ら考え、主体的に行動する能力」、「英語の能力」の5つの能力について Q.12~Q.16 で尋ねた。これらは多くの学部のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに謳われている項目であることから、学生が卒業するまでに「専門知識の向上」を含めて高い向上感を得られることが、教育効果の検証として重要となる。

Q.12 入学後1年間の授業を受けて、人間社会や自然についての幅広い視野と教養は、どの程度、向上したと思いますか。

①大いに向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④全く向上しなかった

Q.13 1年間で、あなた自身が問題を発見し、論理的に解決法を考える力は、どの程度、向上したと思いますか。

①大いに向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④全く向上しなかった

Q.14 1年間で、自分の考えを表現し、相手の意見を理解するコミュニケーション能力は、どの程度、向上したと思いますか。

①大いに向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④全く向上しなかった

Q.15 1年間で、自ら考え、主体的に行動する能力は、どの程度、向上したと思いますか。

①大いに向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④全く向上しなかった

Q.16 1年間で、あなたの英語の能力はどの程度、向上したと思いますか。

①大いに向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④全く向上しなかった

<図1-1 大学教育での向上感 各要素別>

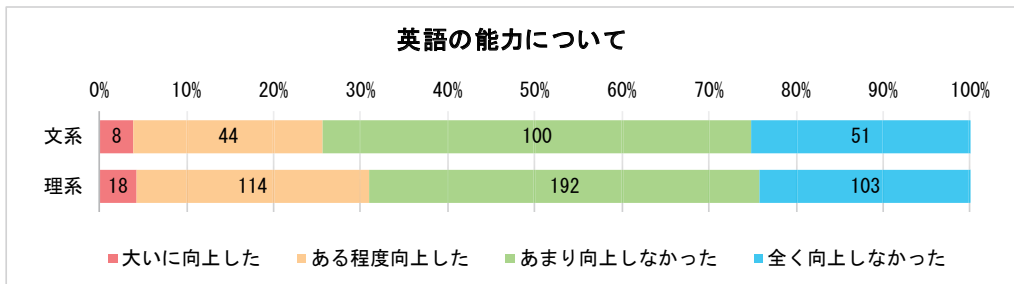
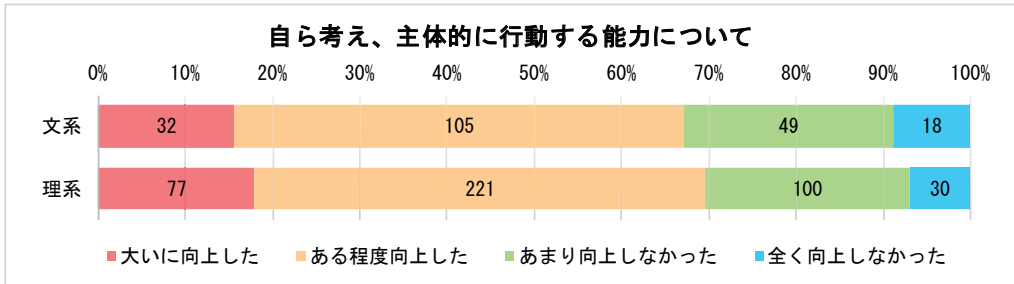
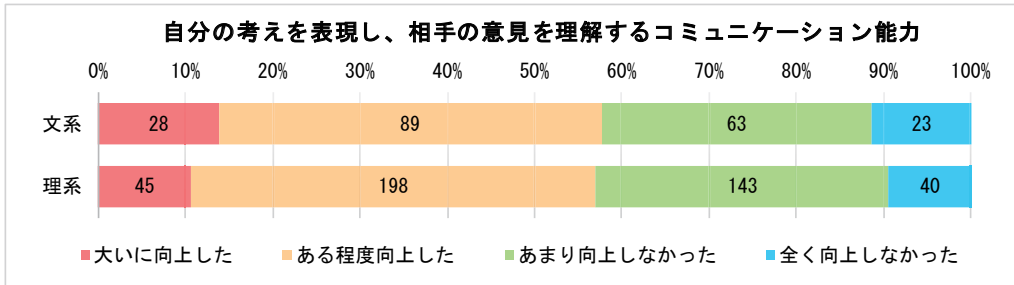
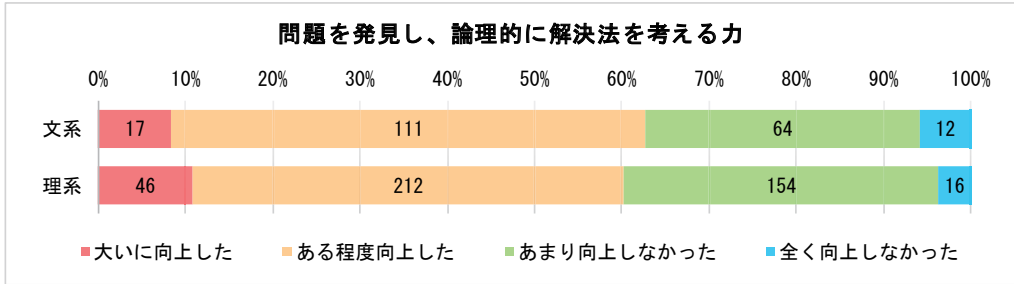
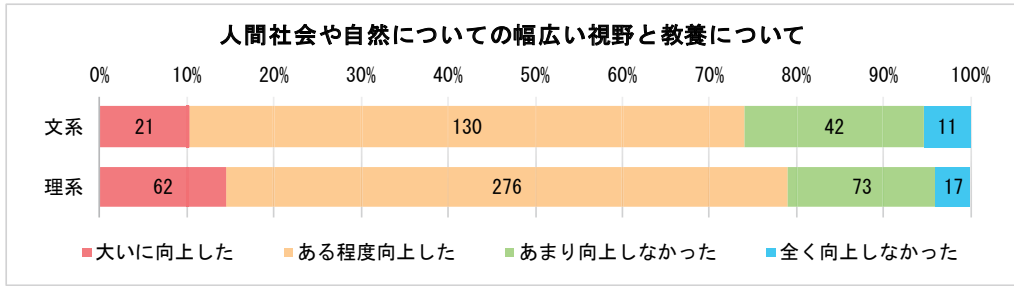


図 11 は各要素能力について文系、理系別の回答比率を図示している。概観すると、「大いに向上した」、「ある程度向上した」の肯定的意見の比率は、

「人間社会や自然についての幅広い視野と教養」：平均約 75%

「問題を発見し、論理的に解決法を考える力」：平均約 65%

「自分の考えを表現し、相手の意見を理解するコミュニケーション能力」：平均約 60%

「自ら考え、主体的に行動する能力」：平均約 75%

「英語の能力」：平均約 30%

であった。教養・共通教育としては、「幅広い視野と教養」と「主体的能力」の向上感が高いことは良い結果であるが、2016 年度入学生から E 科目の改革を進めているにも関わらず「英語能力」について向上感が低いことは残念な結果となっており、さらなる検討が必要であることを示唆している。

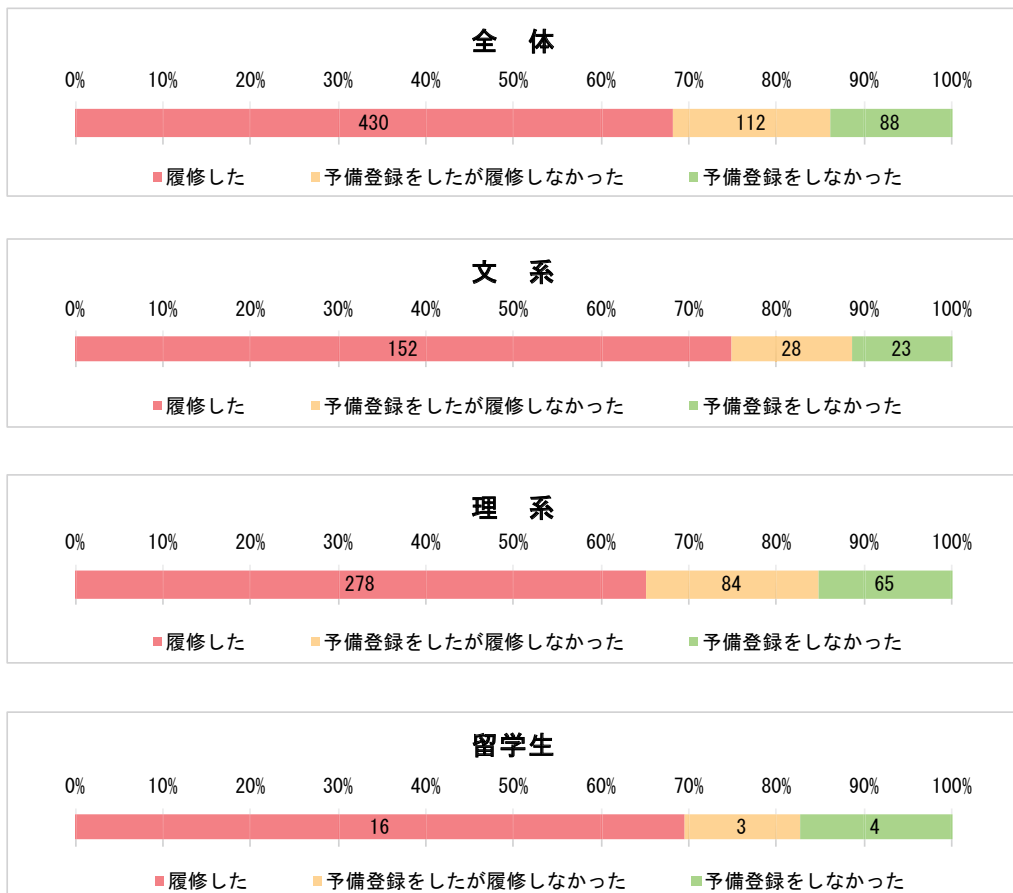
6. ILAS セミナーの受講

本年度より、ILAS セミナーに関する質問を、2 回生進級時アンケートに追加した。1998 年度に始まる少人数ゼミは、開始以来開講数が大幅に拡大して現在の ILAS セミナーに至っている。ILAS セミナーは、主に新入生を対象に、「ILAS セミナー」、「ILAS Seminar-E2」、「ILAS セミナー（海外）」の 3 種類を開講しており、各学部・研究科・研究所・センター等の教員が、Face to Face の親密な人間関係の中で、様々なテーマを扱った少人数ゼミナール形式の授業として企画され、入学当初の重要な初年次教育と位置づけられている。2016 年度においては、282 科目が開設され、受講定員 2,820 名、受講申し込み者数 2,624 名、受講許可者数 2,277 名であった。入学者の約 76% がいずれかの科目を受講している。入学者に対する受講申し込み率、受講決定率は開講科目数の増加とともに向上したものの 86% 前後で停滞しており、その理由を調査して今後の改善策を検討することが目的である。

Q.17 1 回生で ILAS セミナーを履修しましたか。

①履修した ②予備登録をしたが履修しなかった ③予備登録をしなかった

<図 1 2 ILAS セミナーの受講>

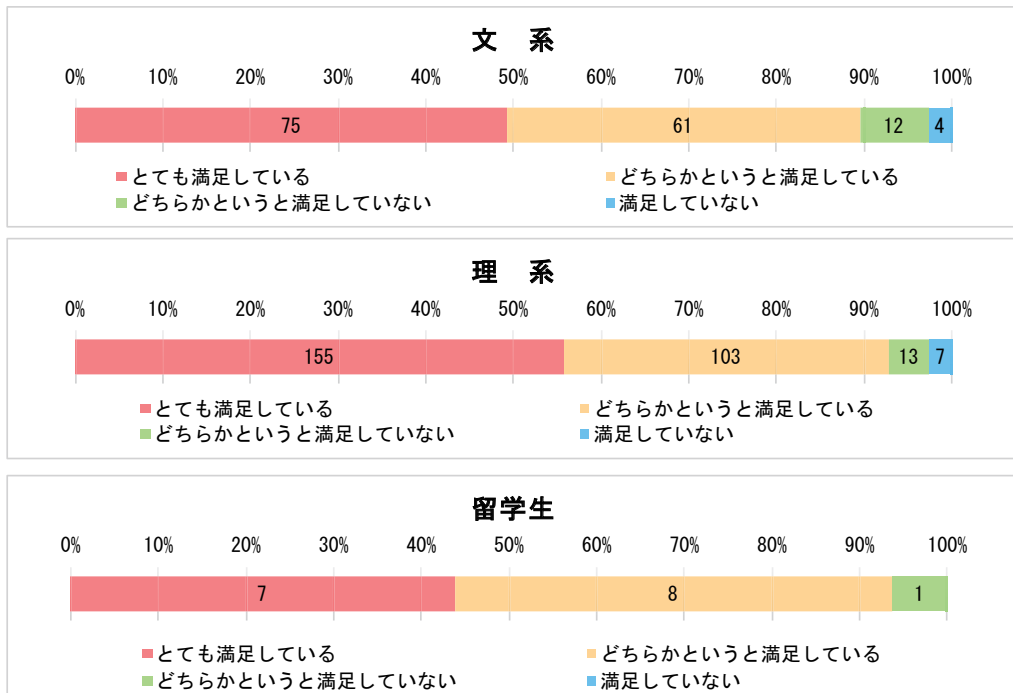


Q.17 では、受講の有無を尋ねた。「ILAS セミナー」では少人数ゼミという性格上、最小 5 名から最大 15 名までの定員を設けている。第 3 希望までの予備登録を行い、抽選により履修許可を出している。全体の 18% が予備登録をしたのに履修していない。また 14% が予備登録そのものをしなかった。文系と理系を比較すると、理系の方が履修率が約 10% ほど低くなり、「予備登録をしたが履修しなかった」という回答が約 20% もあるという結果であった。その理由については Q.19 で問うことにする。

Q.18 Q.17 で「履修した」を選んだ方へ：セミナーで学習した知識や経験について満足していますか。

- ①とても満足している ②どちらかという満足している ③どちらかという満足していない
④満足していない

<図 1 3 ILAS セミナー履修者の満足度>

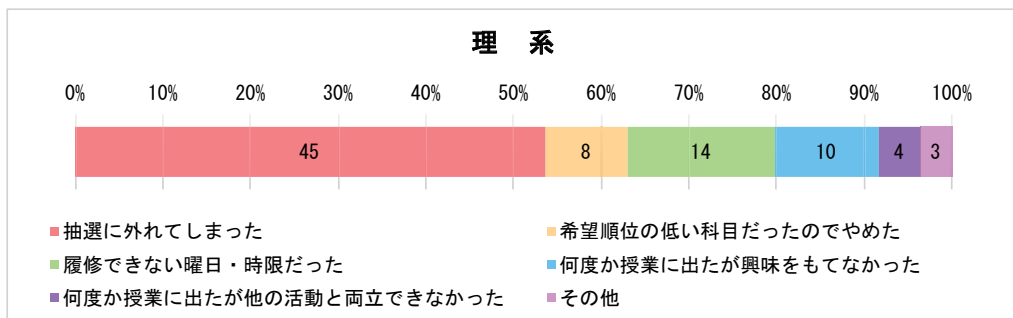
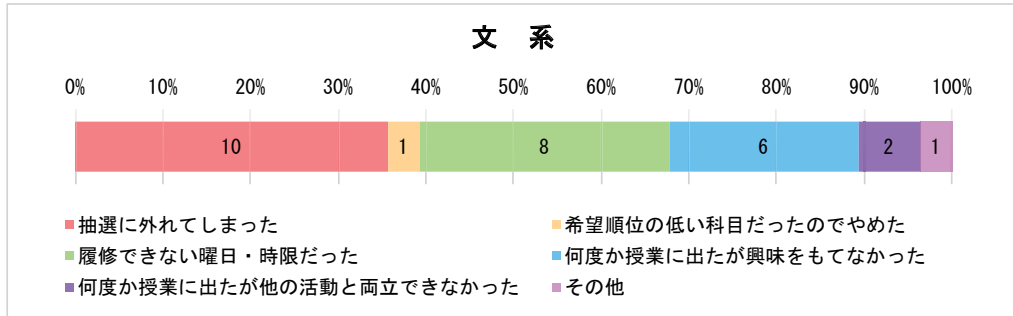


Q.18 では、ILAS セミナーを履修した学生の満足度を尋ねた。図に示したように、「とても満足」と「どちらかという満足」を合わせると約 90% の学生が学習内容に満足しているという結果である。

Q.19 Q.17で「予備登録をしたが履修しなかった」を選んだ方へ：履修しなかった理由は何ですか。

- ①抽選に外れてしまった ②希望順位の低い科目だったのでやめた ③履修できない曜日・時限だった
 ④何度か授業に出たが興味をもてなかった ⑤何度か授業に出たが他の活動と両立できなかった
 ⑥その他（記述回答）

<図14 ILASセミナー：予備登録したが履修しなかった理由>



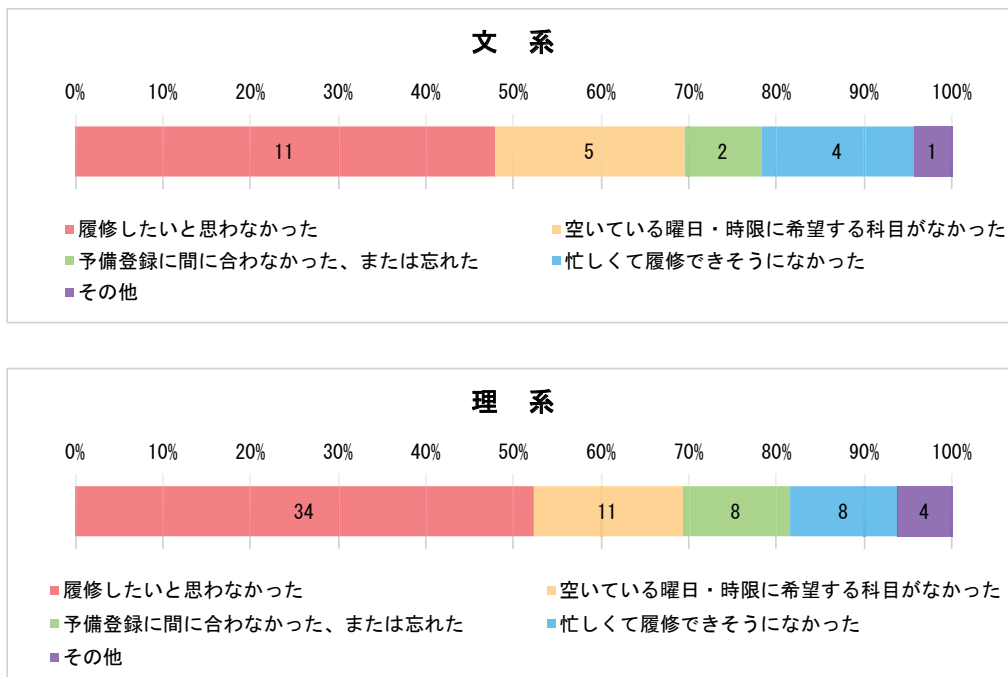
この設問で「予備登録をしたが履修しなかった」理由を問うた。その結果、理系では約半数の学生が「抽選に外れてしまった」ことを理由に挙げた。Q.17で理系の履修率が文系と比較して減少（文系：75%、理系：65%）した理由はおそらくこの点にある。理系学生の好む科目数が学生数に対して少ないため競争率が上がっている、あるいは理系学生にこそ人系系セミナーの受講をもっと推奨すべきなど、理由に応じた対策を考える必要がある。348名の抽選外れが出た2017年度の状況（5名定員41科目中30科目で定員オーバー、当選者のうち第二希望当選者236名、第三希望当選者165名）を基に直ぐに適応できる策として、ILASセミナーの最低定員を5名から6名に増やす、予備登録の希望候補を3科目から4科目に増やして抽選する等の具体策が考えられる。

次に多い理由は「履修できない曜日・時限だった」であるが、この点については他の科目との重複を避けるため、2016年度からILASセミナーを前期5限開講に設定したことにより、かなり解消されたはずである。しかしなお第2位の理由であることから、1回生のカリキュラムの過密に原因があるとみるべきである。

Q.20 Q.17で「予備登録をしなかった」を選んだ方へ：予備登録をしなかった理由は何ですか。

- ①履修したいと思わなかった
- ②空いている曜日・時限に希望する科目がなかった
- ③予備登録に間に合わなかった、または忘れた
- ④忙しくて履修できそうになかった
- ⑤その他（記述回答）

<図15 ILASセミナー：予備登録をしなかった理由>



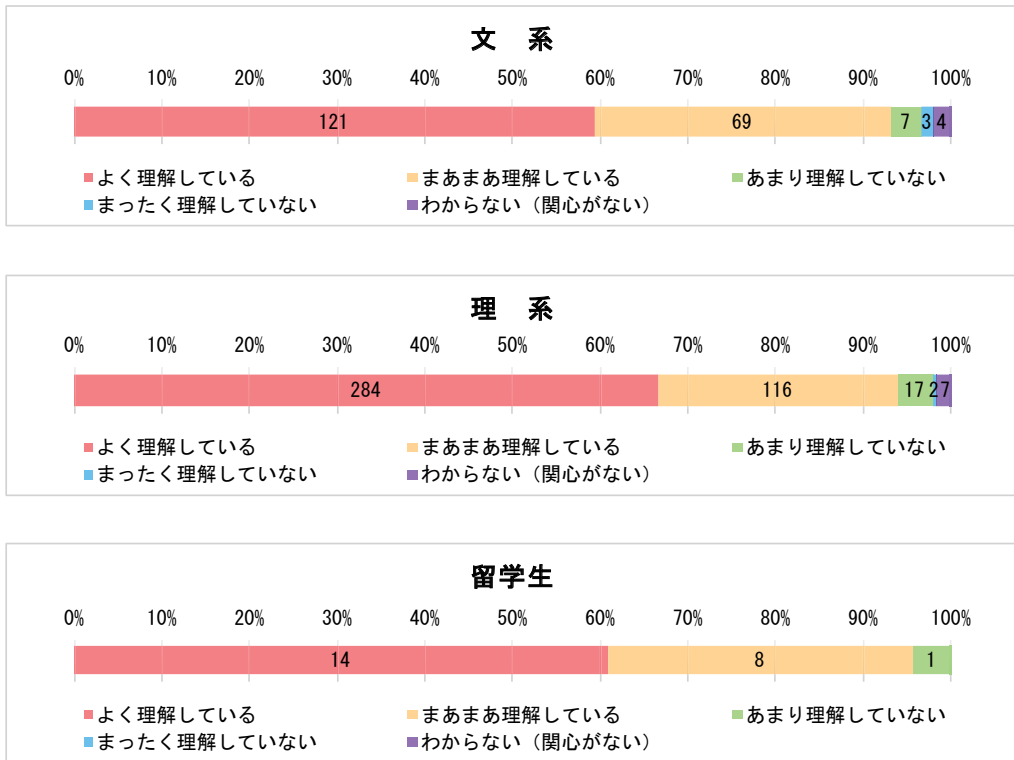
「予備登録をしなかった」学生に理由を尋ねた結果、文・理を問わず約半数の学生が「履修したいと思わなかった」と答えている。Q.17で予備登録をしなかった学生の比率が全体の14%であったことを考慮すると、その半数なので、入学者の約7%はILASセミナーそのものにも興味をもっていないことになる。

7. 履修動向と成績（単位、GPA、TOEFL ITP）

Q.21 前期・後期の各学期の中間に「履修取り消し期間」がありますが、これは単位を取得する意志がなくなった人が不受験になり GPA が低くなることを防ぐために設けられた制度です。このことを理解していますか。

- ①よく理解している
- ②まあまあ理解している
- ③あまり理解していない
- ④まったく理解していない
- ⑤わからない（関心がない）

<図16 履修取り消し 理解度>

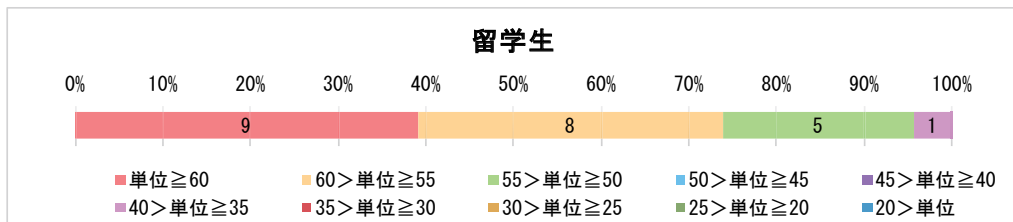
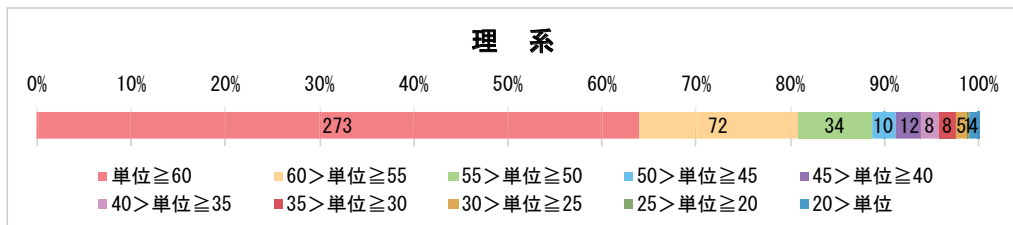
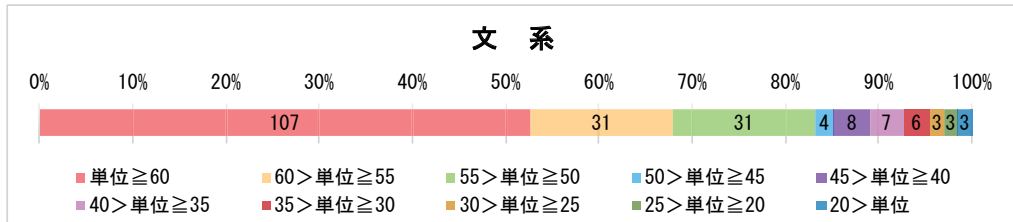


京都大学でも全学として GPA 制度が導入されているが、導入に際して、前期・後期とも学期半ばに履修取り消し期間が設けられた。この趣旨がどの程度学生の間で理解されているかを尋ねた。この図に示したように「よく理解している」、「まあまあ理解している」学生は 90% を超えており、制度に対する理解は浸透していると判断できる。

Q.22 あなたは1回生の間に何単位を取得しましたか。全学共通科目に加えて、専門基礎科目、専門科目を含む合計を、1回生終了時に受けとった成績表で確認してお答えください。

- ①単位 \geq 60 ②60>単位 \geq 55 ③55>単位 \geq 50 ④50>単位 \geq 45 ⑤45>単位 \geq 40 ⑥40>単位 \geq 35
 ⑦35>単位 \geq 30 ⑧30>単位 \geq 25 ⑨25>単位 \geq 20 ⑩20>単位

<図17 取得単位>



単位の実質化の議論において、授業時間ならびに予習・復習・課題等に要する授業外学習時間を十分に確保することが重要である。大学設置基準では2単位授業1コマにつき4時間の授業外学習時間が求められており、そのためには1日に学習する授業コマ数は適切に抑制される必要がある。本学では全学共通科目にCAP制を導入して、多くの学部が1学期34単位（総人は20コマ）を上限としている。これに加えて学部により専門基礎科目の履修が課せられている。この設問では1回生の年間取得単位数を調査した。文系学部では60単位以上を取得した学生が50%、理系学部では60%以上もおり、1回生で過剰な単位を取得することが常態化していると言える。本学の多くの学部で卒業要件となっている138~156単位（大学設置基準では124単位）と比較して、本学の1回生は明らかに単位の取り過ぎ状態にある。これは単位の实質化の要請からも、また標準修業年数4年という教育体系から見ても異常な状態であり、早急に改善するための対策を取る必要がある。

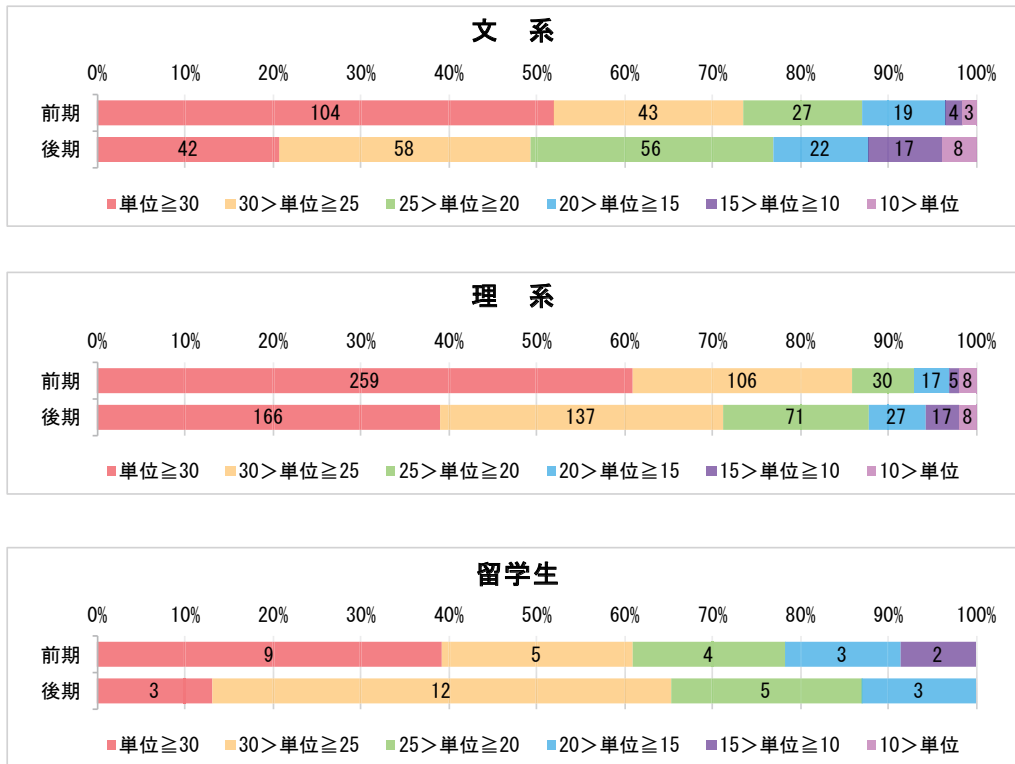
Q.23 Q.22 について、その取得単位数のうち、全学共通科目について「前期」の取得単位数はどれくらいですか。

- ①単位≧30 ②30>単位≧25 ③25>単位≧20 ④20>単位≧15 ⑤15>単位≧10 ⑥10>単位

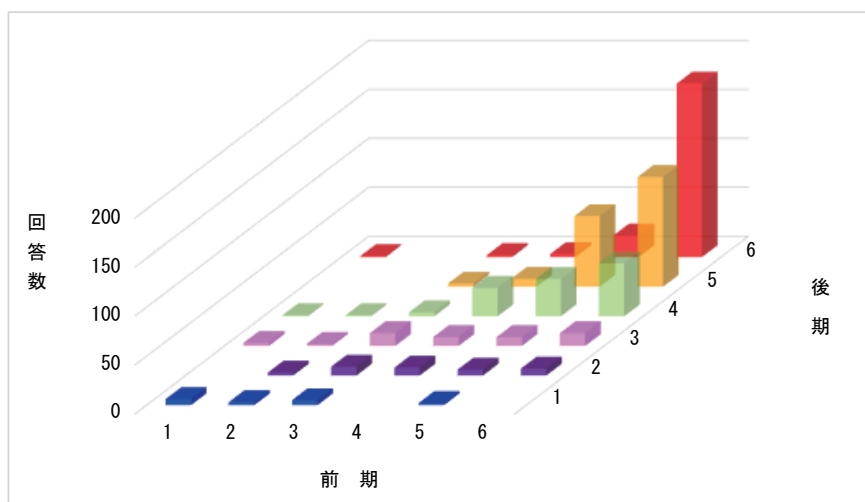
Q.24 Q.22 について、その取得単位数のうち、全学共通科目について「後期」の取得単位数はどれくらいですか。

- ①単位≧30 ②30>単位≧25 ③25>単位≧20 ④20>単位≧15 ⑤15>単位≧10 ⑥10>単位

< 図 1 8 全学共通科目の取得単位 >



<図19 全学共通科目の取得単位・前後期の相関>



※グラフの数値は以下のとおりとする。

「単位 \geq 30」を6、「30>単位 \geq 25」を5、「25>単位 \geq 20」を4、
「20>単位 \geq 15」を3、「15>単位 \geq 10」を2、「10>単位」を1

Q.22 に続けて、取得単位の内の全学共通科目の単位数を前期、後期に分けて調査した。

図18で文系、理系を比較すると理系の方が取得単位数の多い学生比率が高い。全体として、前期と比べて後期の履修は少なくなる。

図19では、前期・後期の単位取得数の相関を見ている。意外なことに、前期に多くの単位を取得した学生は、後期において抑制することなく、さらに多くの単位を取得する傾向にある。同様に前期に25単位程度とほどほどに取得した学生は後期においてもほどほどに取得する傾向にある。学生の個性の問題かも知れないが、各学部の1回生カリキュラム、履修指導、CAP制度の適正化により是正していく必要があるように思われる。

なお、取得単位数が想定を上回ったため、質問する単位数の区分けが不適切であることが分かった。外国語科目の単位が2単位化されCAP制度も34単位まで緩和されたことが理由の一つと上げられる。より正確な実態を把握するためには、次年度のアンケートではさらに上位区分を設けて質問しなければならない。

Q.25 1回生の間に単位を取得した「人文・社会科学科目群」の科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100% ②約80% ③約60% ④50%以下

Q.26 1回生の間に単位を取得した「自然科学科目群」の科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100% ②約80% ③約60% ④50%以下

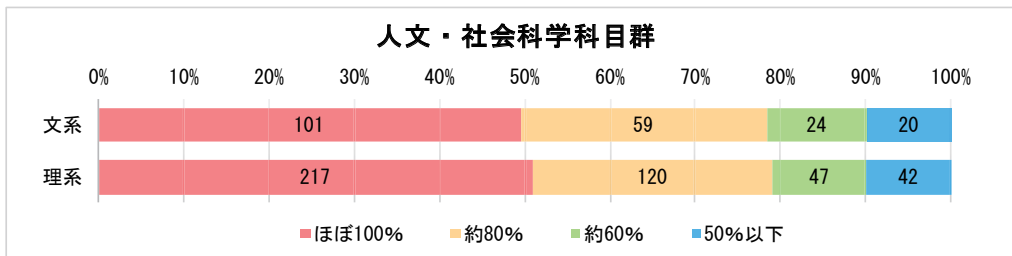
Q.27 1回生の間に単位を取得した「外国語科目群」の英語科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100% ②約80% ③約60% ④50%以下

Q.28 1回生の間に単位を取得した「外国語科目群」の初修外国語科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100% ②約80% ③約60% ④50%以下

<図20>



4科目群（「人文・社会科学科目群」「自然科学科目群」「外国語科目群・英語」「外国語科目群・初修外国語」）の授業出席率を文系、理系別に記載した。実際に出席回数を計測したのではなく学生本人の意識による集計であることに留意されたい。図20は人文・社会科学科目群の出席率を示したものである。授業に付いていくためにはやはり「80%以上」の出席率が必要と考えるが、平均的には全体の80%程度の学生が該当している。

<図21>

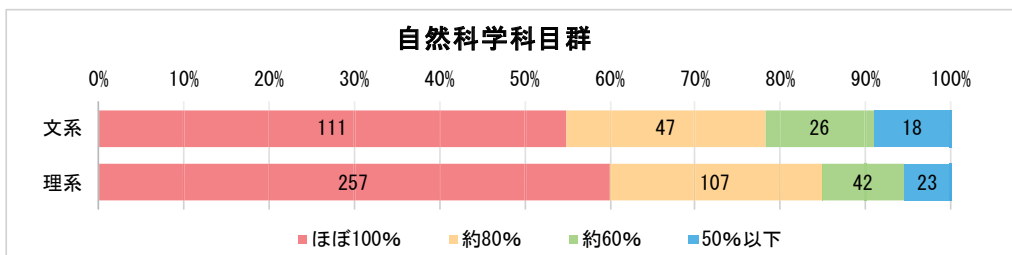
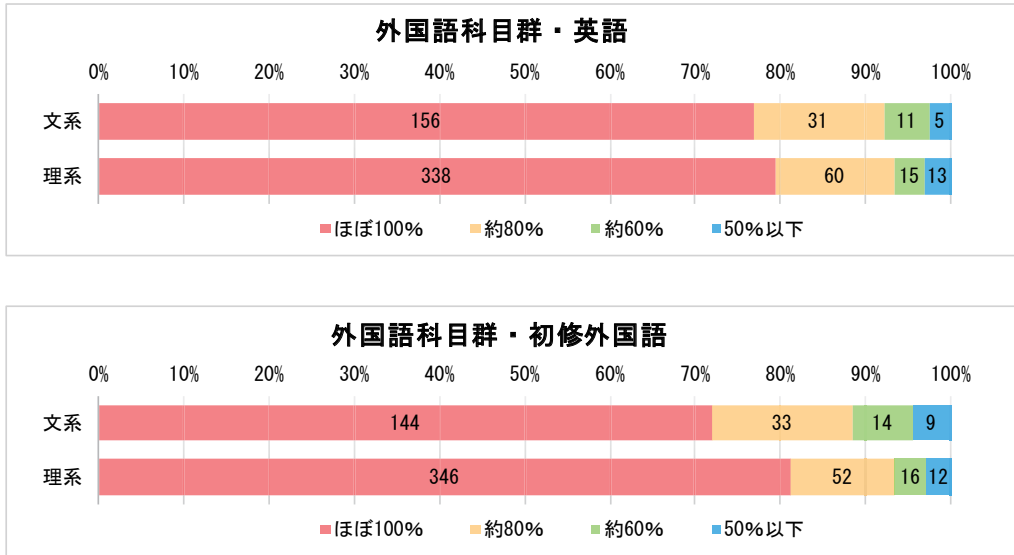


図 20 と同様に、「自然科学科目群」について尋ねたものがこの図 21 である。結果は図 20 とほぼ同じである。

<図 2 2 上：英語、下：初修外国語>



英語科目と初修外国語科目の出席率は高く、「ほぼ 100%」と回答した学生の割合は 70%を超えており、「80%以上」では全体の 90%程度になっている。

4 科目群で比較してみると、語学科目の出席率は人文社会科目群と自然科学科目群の出席率よりも明確に高い。出席点検や授業内での応答が求められる語学との授業形態の差が反映されているものと思われる。

Q.29 あなたの 1 回生（前期＋後期）終了時の GPA はどのレベルですか。1 回生終了時に受けとったあなたの成績表で確認してお答えください（**非公開**）。

- ① $GPA \geq 4.0$ ② $4.0 > GPA \geq 3.5$ ③ $3.5 > GPA \geq 3.0$ ④ $3.0 > GPA \geq 2.5$ ⑤ $2.5 > GPA \geq 2.0$
 ⑥ $2.0 > GPA \geq 1.5$ ⑦ $1.5 > GPA$

Q.30 あなたが 1 回生後期（2016 年 12 月）に受けた TOEFL ITP のスコアはどのレベルでしたか。（**非公開**）

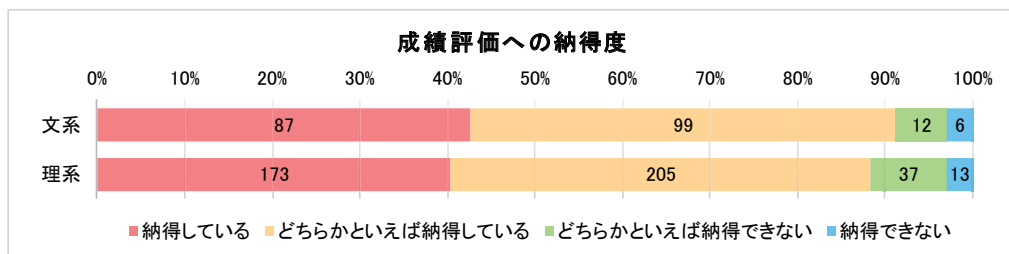
- ① スコア ≥ 550 ② $547 \geq \text{スコア} \geq 503$ ③ $500 \geq \text{スコア} \geq 450$ ④ $447 \geq \text{スコア}$

8. 成績評価への納得度

Q.31 1 回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします：全体として自分の成績評価に納得していますか。

- ①納得している ②どちらかといえば納得している ③どちらかといえば納得できない ④納得できない

<図 2 3 >



成績評価の納得度については、これまでのアンケートでも同じ質問をして継続的に調査している。「納得している」、「どちらかといえば納得している」を合わせると、肯定的な回答をした学生はほぼ 90% になっており、納得度は高いと言える。

<表 3 >

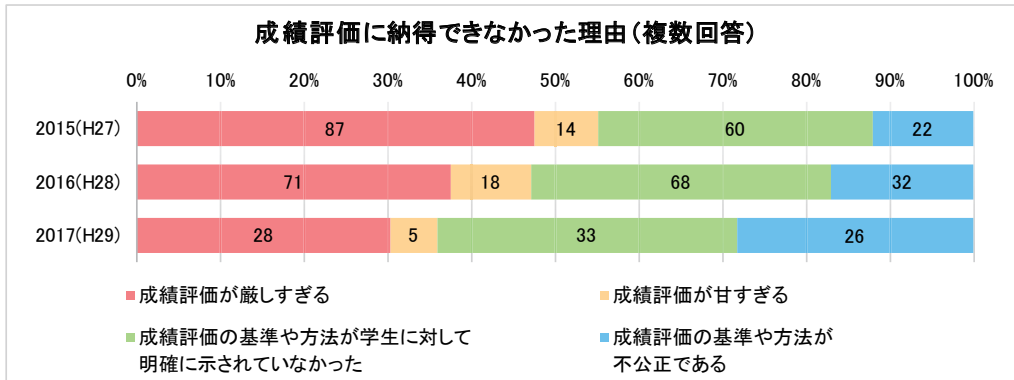
	2005	2016	2017
納得している	39%	46%	41%
どちらかといえば納得している	46%	43%	48%
どちらかといえば納得できない	10%	8%	8%
納得できない	5%	3%	3%

この統計を取り始めた初期の頃、2005（平成 17）年、昨年との比較をするために、回答における各項目の百分率を表に示した。上述したように「納得している」、「どちらかといえば納得している」を合わせると、最近では毎年 90%程度を維持している。

Q.32 Q.31で「どちらかといえば納得できない」又は「納得できない」を選んだ方へ：成績評価に納得できなかった理由は何ですか。次の中からあてはまる全てのものにチェックをつけてください。

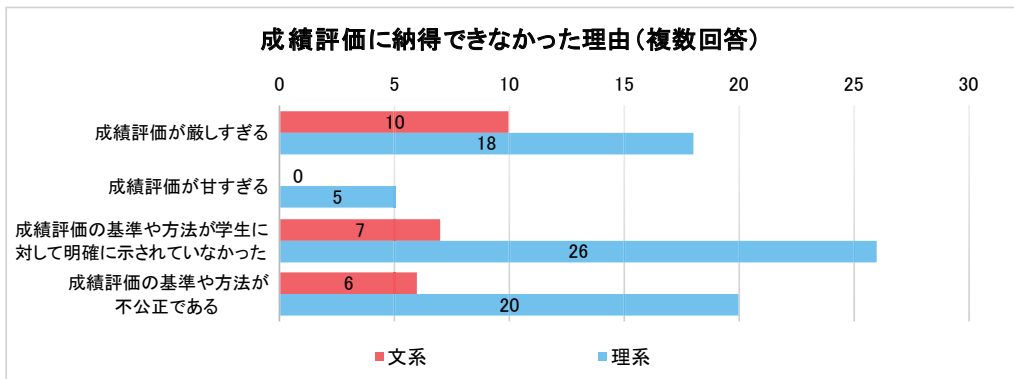
- ①成績評価が厳しすぎる ②成績評価が甘すぎる ③成績評価の基準や方法が学生に対して明確に示されていない
 ④成績評価の基準や方法が不公正である ⑤その他（記述回答）

<図24>



Q.32では成績評価に納得できない理由を尋ねた。この質問は毎年継続して質問している項目である。複数回答を可能にしているので、全回答における①～④の比率を図示している。3年前の2015年度からのデータと合わせて変化を見ると、①の「厳しすぎる」の割合は次第に減る一方、④の「不公正」と感じる学生の割合が増加している。推測であるが、GPAの導入で成績に対する関心が高まり、相対評価としての明確さ、公平さを求める意見が強くなっているのではないだろうか。ただし、回答全体の90%の学生は納得している」と答えており、この項については回答者のうち約10%の意見であることに留意して判断する必要がある。

<図25>



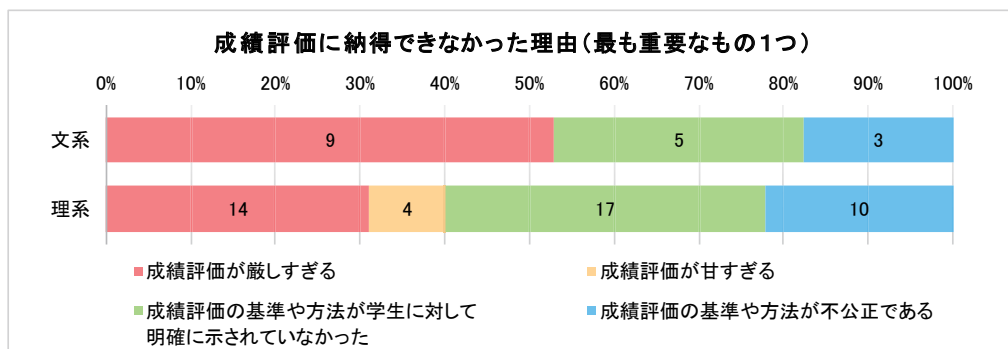
この図では文系と理系で回答度数を単純に表示している。文系学生では①の「成績評価が厳しすぎる」が最も多く、次いで③「基準や方法が不明確」が多い。この傾向は毎年類似している。一方、理系学生で

は、③「基準や方法が不明確」が多く、次いで④「基準や方法が不公正」が多くなる。上述したように相対評価に対する関心が理系の学生の方により強く表れている。コース分けや配属などで成績評価が用いられることが理系では多いためと推測される。

Q.33 Q.32 で選んだもののうち、最も重要なもの1つを選択してください。

- ①成績評価が厳しすぎる ②成績評価が甘すぎる ③成績評価の基準や方法が学生に対して明確に示されていない
 ④成績評価の基準や方法が不公正である ⑤その他（記述回答）

<図26>



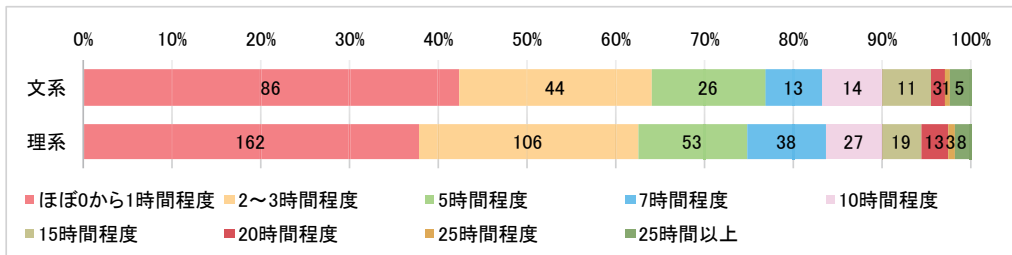
納得できない理由の最重要項目として選ばれた項目がこの図である。先に述べたように、文系学生では①の「成績評価が厳しすぎる」が最も多く、一方、理系学生では、③の「基準や方法が不明確」が最も多い。

9. 学生生活

Q.34 平均して1週間に何時間程度、運動（スポーツ、散歩、ジョギング、サイクリング等）をしていますか。

- ①ほぼ0から1時間程度 ②2～3時間程度 ③5時間程度 ④7時間程度 ⑤10時間程度
⑥15時間程度 ⑦20時間程度 ⑧25時間程度 ⑨25時間以上

<図27>



この質問では、1週間に運動する時間を尋ねた。結果を図示したが、文系、理系を問わず約40%の学生は1時間以下とほとんど運動をしていない。18～19才という年齢を考えるとあまりに少ないことに驚く結果である。約20%の学生は週2、3時間、つまり一日に20分程度の運動をしている。週7時間以上の学生、約20%はおそらく体育系のサークルやクラブに入っている学生と思われる。

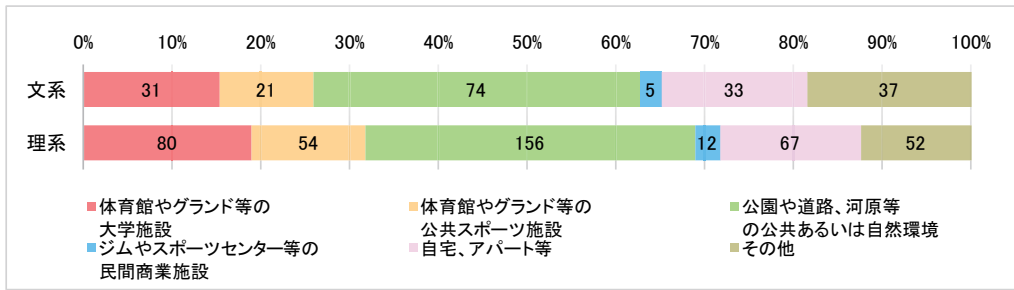
Q.35 あなたが運動をするとき、主にどこの場所を使用しますか。

- ①体育館やグラウンド等の大学施設 ②体育館やグラウンド等の公共スポーツ施設
③公園や道路、河原等の公共あるいは自然環境 ④ジムやスポーツセンター等の民間商業施設
⑤自宅、アパート等 ⑥その他

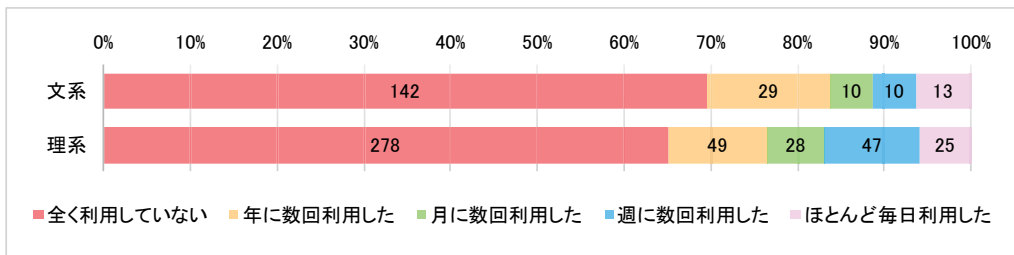
Q.36 この1年間で、授業以外に大学の体育館やグラウンドをどれくらい利用しましたか。

- ①全く利用していない ②年に数回利用した ③月に数回利用した ④週に数回利用した
⑤ほとんど毎日利用した

< 図 28 >



< 図 29 >

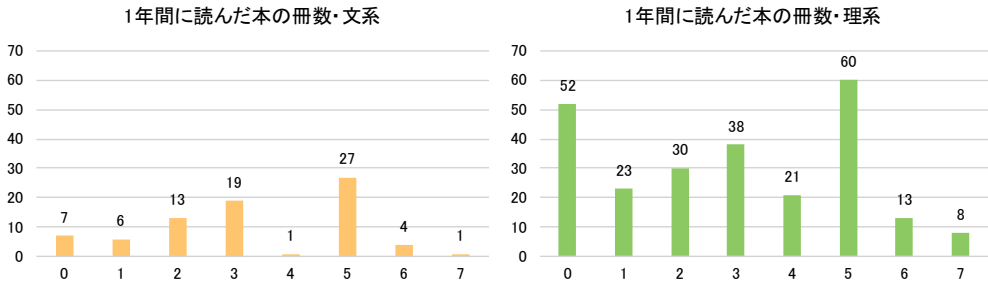


Q.35、Q.36 は、学生が利用する運動場所を調べる質問である。図 28 により約 40% は公園、道路、自然環境等の公共の場所、30% が運動施設、20% は自宅等になっている。しかし大学の施設を利用する学生の割合は、運動施設を利用する学生約 30% のさらに 2/3 以下にとどまっている。つまり全体からみると、18% 程度に過ぎない。

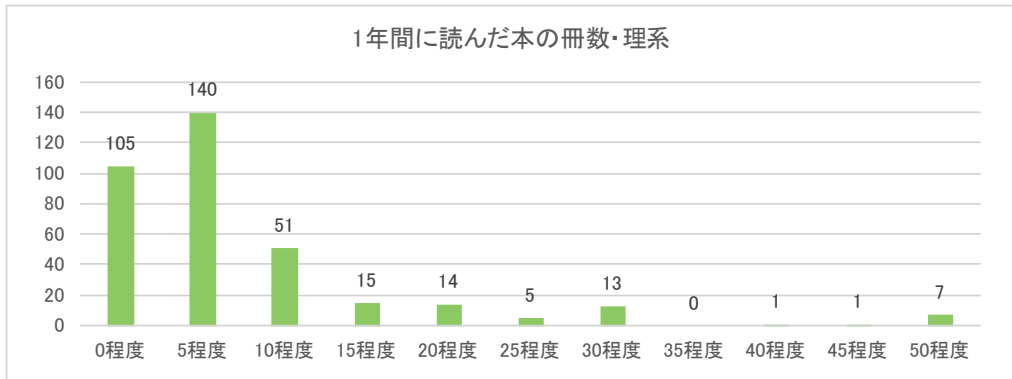
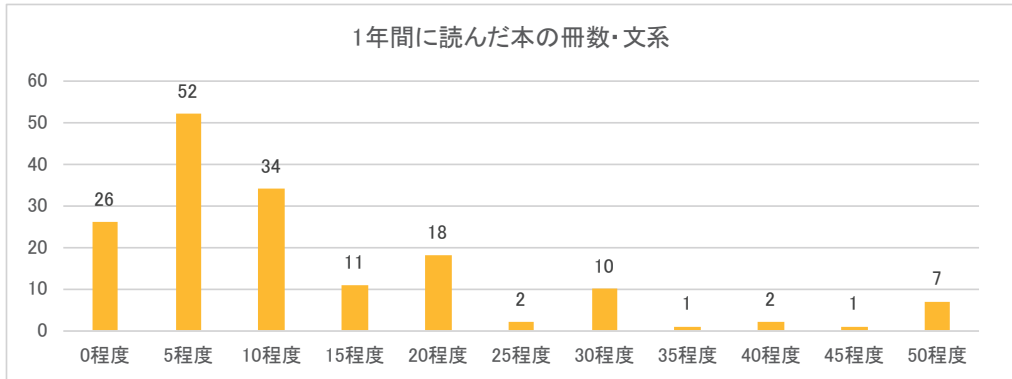
図 29 で見られるように、大学の体育館やグラウンドを全く利用しない学生が 70% であった。Q.34 で十分に運動している学生は全体の 20% しかないという結果と併せて考えると、施設整備が優先されてキャンパスの大半が建物で占められ、芝生地などのグリーン面積が本学では極めて少ないこと、体育館やグラウンドにおいても一般学生の運動の場として開放度が不足しているのではないかと、今回の調査結果には、学生の健康福祉の観点から大いに問題を感じる。

Q.37 この1年間に何冊の本を読みましたか。ただし、授業に用いる教科書や参考書、マンガは除きます。
 ※回答は整数で記入してください。単位の冊は不要です。

< 図 3 0 >



※50冊以上は省略



大学1回生で何冊程度の本を読んでいるかを調査した。ただし授業で使用する教科書や参考書、マンガを除いている。上段には7冊以下の少数冊子の学生の分布を、下段には50冊以下の回答を5冊刻みで図示した。全体の平均値をもとめると、文系では11.9冊、理系では7.8冊となり文系と理系で4冊の差があった。理系の平均値が下がる理由は、ゼロ冊の学生が多数いるためである。授業に関連する本以外は読

書をしないという学生が、理系には少なからずいることが特徴である。しかし文系学生でも、5冊程度をピークとする約半数の少読派は理系と同程度の冊数分布であり、10～20冊程度をピークとする約半数の多読派が平均値を押し上げているようである。

Q.38 1 回生後期の授業期間中のあなたの平均的な1週間（土曜、日曜を含む1週間=168時間）で、次のQ.38~Q.45の各項目に該当する活動時間を教えてください。平均的な平日と休日の合計を計算し、その合計がほぼ168時間になるように調整してください。

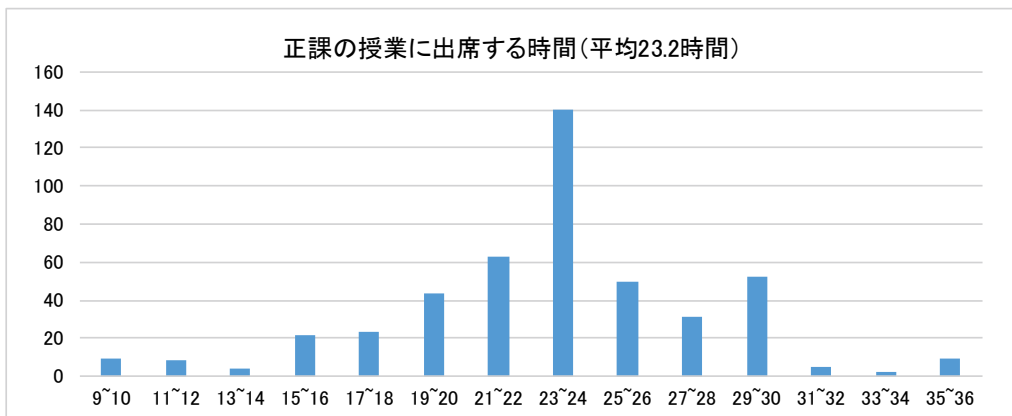
なお、活動時間の項目は、正課の授業、通学、クラブ・サークル等の課外活動、アルバイト、授業の予習・復習・レポート作成等、授業とは直接関係のない学習や読書、睡眠、その他です。

※回答は整数で記入してください。単位の時間は不要です。

< 正課の授業に出席する時間 >

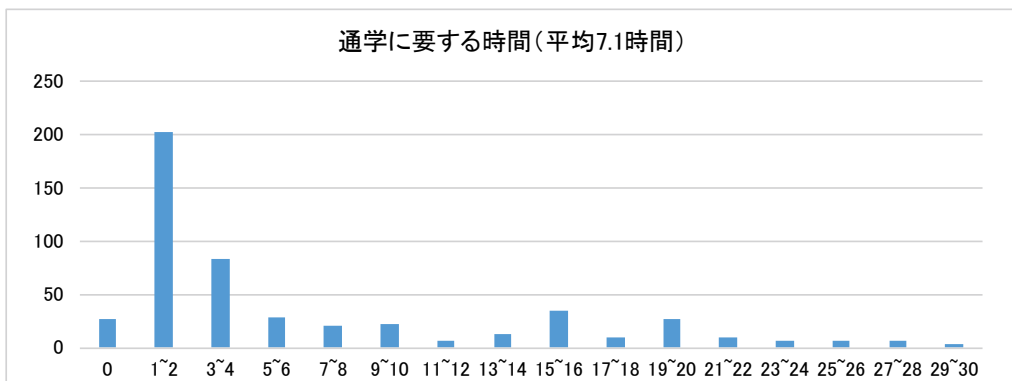
※Q45までのグラフ：少数点以下切り捨て、1時間以下は「0」に含む

< 図 3 1 >



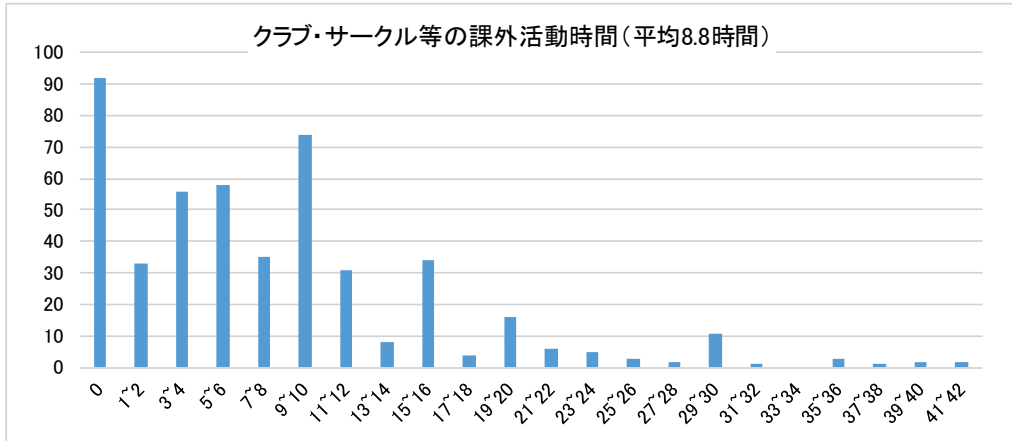
Q.39 < 通学に要する時間 >

< 図 3 2 >



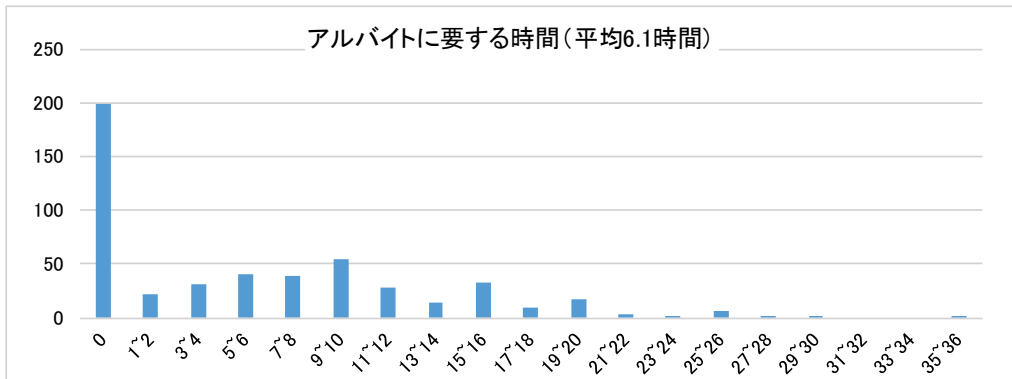
Q.40 <クラブ・サークル等の課外活動時間>

<図33>



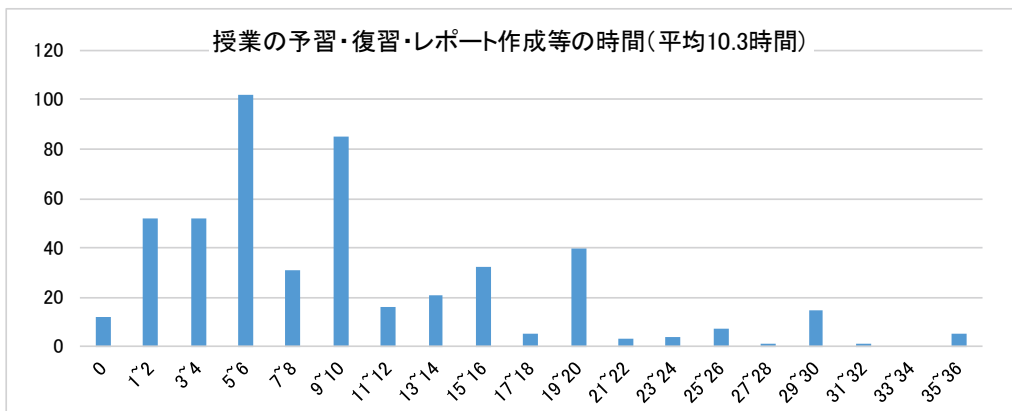
Q.41 <アルバイトに要する時間>

<図34>



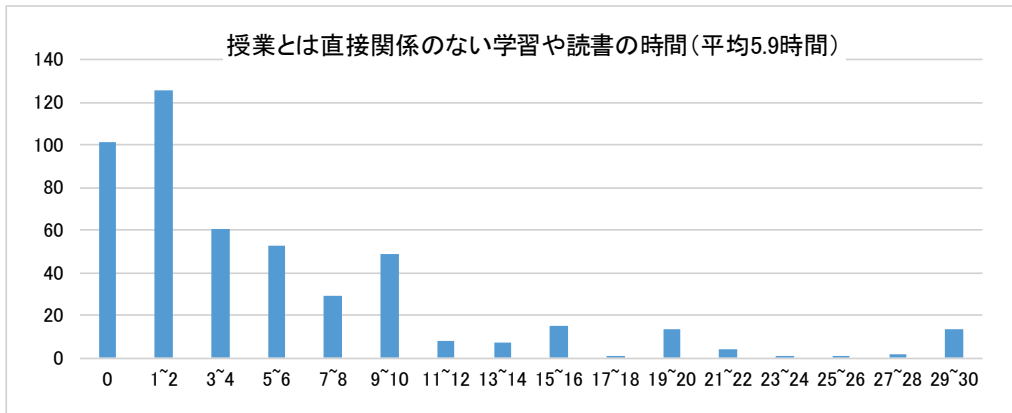
Q.42 <授業の予習・復習・レポート作成等の時間>

<図35>



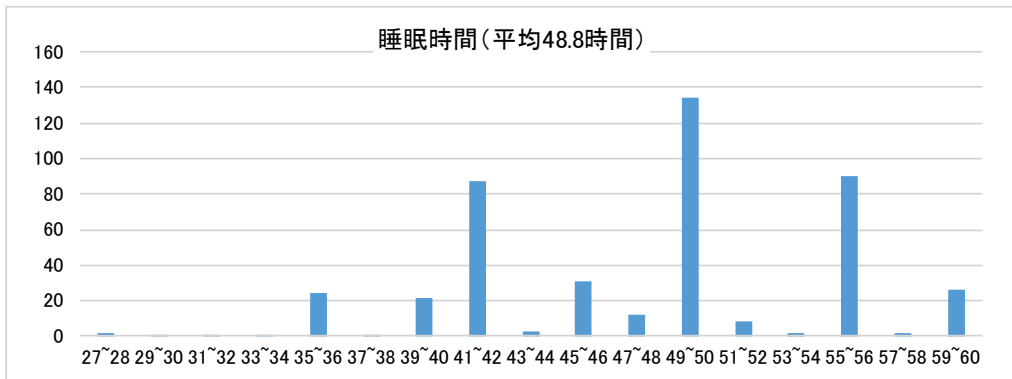
Q.43 < 授業とは直接関係のない学習や読書の時間 >

< 図 3 6 >



Q.44 < 睡眠時間 >

< 図 3 7 >



Q.45 < その他の時間 >

1 回生がどのように生活時間を配分しているか、学生生活の実態と学習行動との関連を Q.38~Q.45 の 8 項目の質問により調べた。

各項目について人数分布を図 31~37 に記載している。また、表 4 に全体、文系、理系での各項目平均値を示した。ここで、質問は学期中の平均的な 1 週間での時間配分を尋ねているので、平日に特有の正課時間や通学時間、休日に多いであろうアルバイト時間等については解釈に注意が必要である。回答のうち、かなりの数の回答において合計時間が週 168 時間にならず、±5%以上の誤差のあるデータは信頼性の観点から削除した。この表ではさらに項目ごとに図 31~37 の範囲に入らない値を異常値として削除している。次年度のアンケートでは、合計時間の不一致や異常値を防ぐ工夫が必要である。

<表4 1回生の学生生活時間/週>

	正課	通学	クラブ	バイト	予習・復習等	*	睡眠	その他
全体	23.2	7.1	8.8	6.1	10.3	5.9	48.8	52.6
文系	21.9	5.1	8.3	6.9	8.9	6.7	49.9	54.6
理系	23.8	8.1	9.1	5.8	10.9	5.5	48.3	51.6

* 授業とは直接関係のない学習や読書の時間

全体の平均値で見ると、

- ・正課授業出席時間の23.2時間は、平日平均にすると1日4.64時間、1コマ授業を1.5時間として1日3.1コマに相当している。1コマを2単位科目として換算すると年62単位となり、Q.22で過半数の学生が60単位以上取得していたことと整合している。文系と理系で比較すると約2時間の授業時間差があり、理系のカリキュラムの方がやや密になっていることを示している。
- ・通学時間については、10時間が片道1時間の通学時間に相当している。なぜか文系の学生の方が理系学生より通学時間が少ない。文系は約31分、理系約49分、全体平均としては、片道約42分の通学時間となっている。原因は不明であるが、理系学生の方に遠距離通学者が多い、文系学生はカリキュラムにより平日の通学回数が少ない等の理由が推測される。
- ・単位の実質化の議論でも着目され、かつ成績に影響するであろう授業時間外学習時間（授業の予習・復習・レポート作成等の時間）の項目では、文系8.9（1.8）時間、理系10.9（2.2）時間、全体平均10.3（2.1）時間という結果であった。（ ）内は平日のみ自宅学習としたときの1日当たり時間外学習時間である。大学設置基準は授業時間外学習時間として2単位授業1コマ当たり4時間の時間外学習を規程している。前述の1日3.1コマ授業が現実とすると、12.4時間（設置基準）が要求されることとなり、2.1時間（現実）とは大きな隔たりがある。設置基準が非現実的であるということは容易いが、それにしても3コマ授業で時間外学習時間2時間という現実の値は大学の授業のあり方を再検討する必要を示している。

その他の項目についてみると、

- ・クラブ・サークルの8.8時間が時間外学習時間に次いで多い。しかし分布図を見ると、ゼロ～数時間の学生と10時間以上の学生に2分化しており、平均値にあまり意味はない。
- ・同じことはアルバイトについても言える。分布図から分かるように、アルバイトをしていない学生が多数いる一方、アルバイトをしている学生群は10時間程度にピークをもつ分布になる。
- ・睡眠時間はほぼ7時間と健全である。
- ・不可解なことは、「その他」の時間が53時間と睡眠時間より長くなっている点である。この中には、食事や休憩、友人との交際、TV、ゲーム、スポーツ等々、さまざまな生活時間が考えられる。最近の1回生は多数の科目を履修して忙しい毎日を送っていると言われていたが、その割には学生生活を楽しむ余裕をまだ感じられる。なお、アンケートにおいて所要時間を計算・推定しやすい項目から順に尋ねたため、残りの時間が「その他」に集約されてしまったことも要因として考えられる。

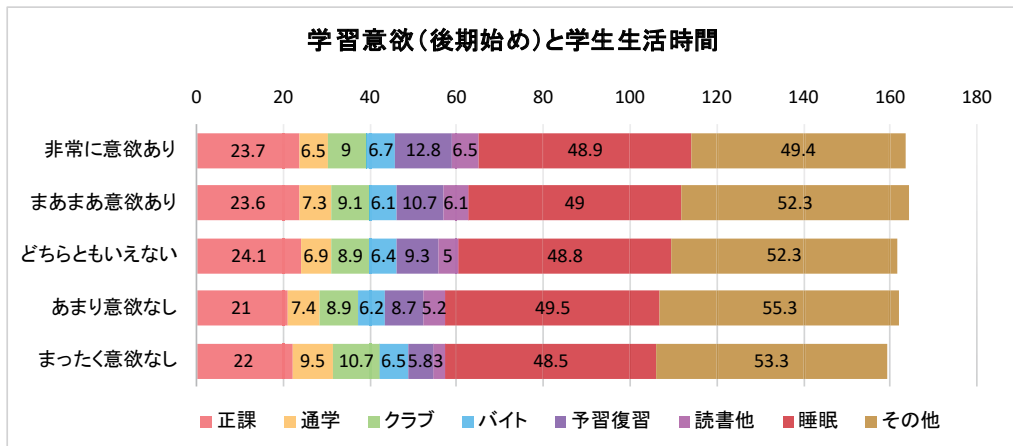
次に、Q.09「後期開始時の学習意欲」と学生生活との関連性を調べた。ここでも合計時間が週 168±5% 時間以内のデータのみを採用し、かつ項目ごとに図 31~37 の範囲に入らない値を異常値として削除している。このため各項目とも表 5 に記載した回答数より数件少ないデータを用いて平均値をもとめている。したがって、合計時間が 168 時間より若干少なくなっている。回答数があまりに少ない項目は、統計的な精度に欠くことに留意されたい。

<表 5 Q.09 後期開始時の学習意欲と学生生活時間>

	回答数	正課	通学	クラブ	バイト	予習・復習等	*	睡眠	その他
非常に意欲あり	51	23.7	6.5	9.0	6.7	12.8	6.5	48.9	49.4
まあまあ意欲あり	158	23.6	7.3	9.1	6.1	10.7	6.1	49.0	52.3
どちらともいえない	66	24.1	6.9	8.9	6.4	9.3	5.0	48.8	52.3
あまり意欲なし	46	21.0	7.4	8.9	6.2	8.7	5.2	49.5	55.3
まったく意欲なし	6	22.0	9.5	10.7	6.5	5.8	3.0	48.5	53.3

* 授業とは直接関係のない学習や読書の時間

<図 38 >



後期開始時の学習意欲と授業時間外学習時間（予習・復習・課題等）に明確な傾向が表れている。すなわち学習意欲の高い群ほど、時間外学習時間が長くなっている。単純に一方通行の因果関係ではなく様々な要素が複雑に作用しているが、上に指摘したように、時間外学習時間を延ばすことが学習成績の向上に繋がることは明白である。

学生の意欲に期待するのみならず、学習行動を喚起する工夫を授業に組入れることが、同じ正課授業時間を使いつつ学習効果を上げる有効な方法と思われ、今後の教育改善の方向性を示唆している。

なお、異常値として削除した回答の中には、正課時間の極端に少ない学生、睡眠時間が極端に多い学生がいた。本アンケートでは個人を識別しないが、事実であれば生活指導の対象とすべき学生である。

10. 学生の期待と実現度

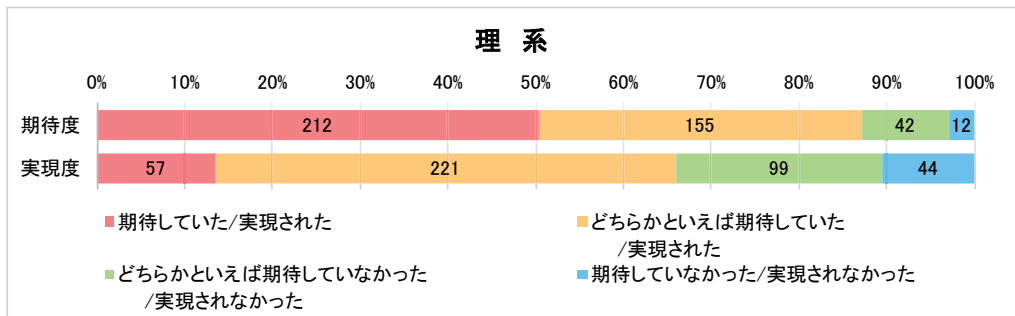
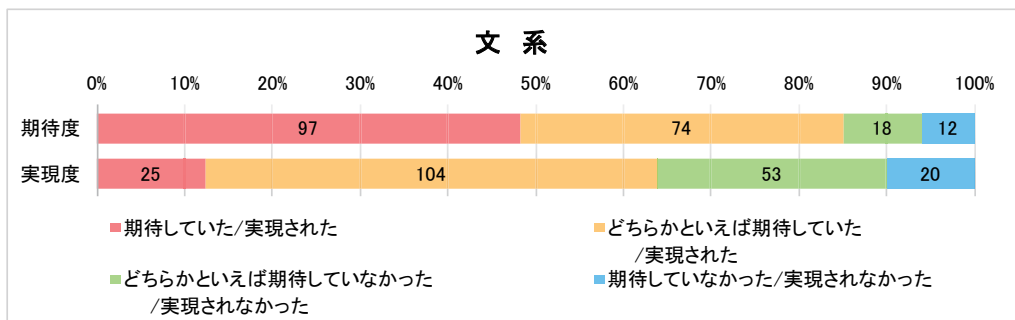
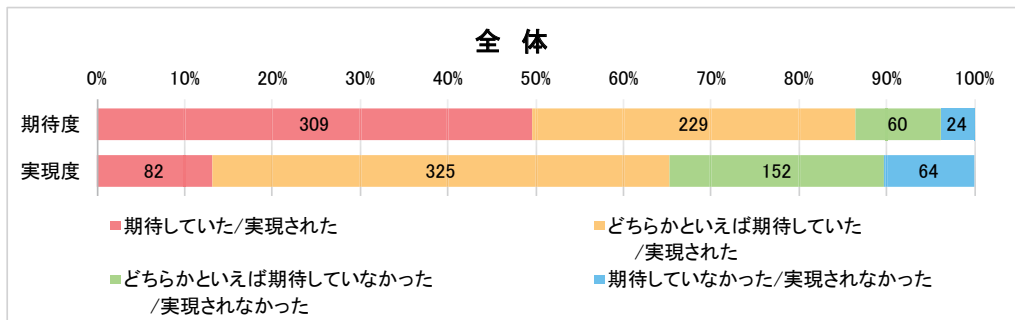
Q.46 Q.46～Q.59までは、全学共通科目に関する7つの項目について、入学当初の期待度と、それに対する現在の実現度をお尋ねします：あなたは入学当初、全学共通科目において「専門以外の幅広い知識・教養」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.47 Q.46について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図39 「専門以外の幅広い知識・教養」を得ることへの期待と実現度>



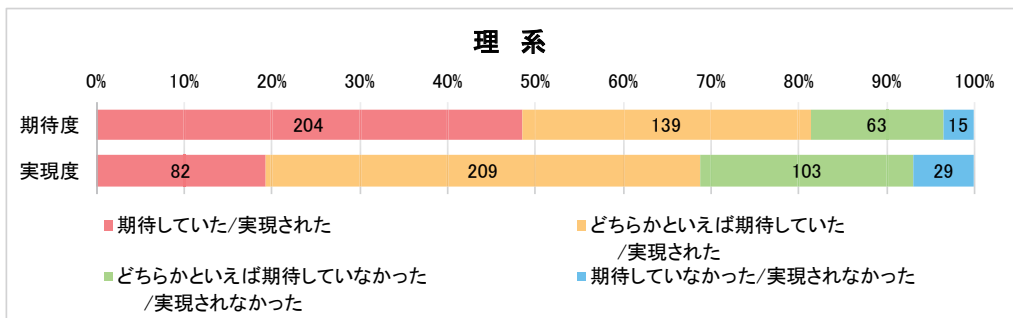
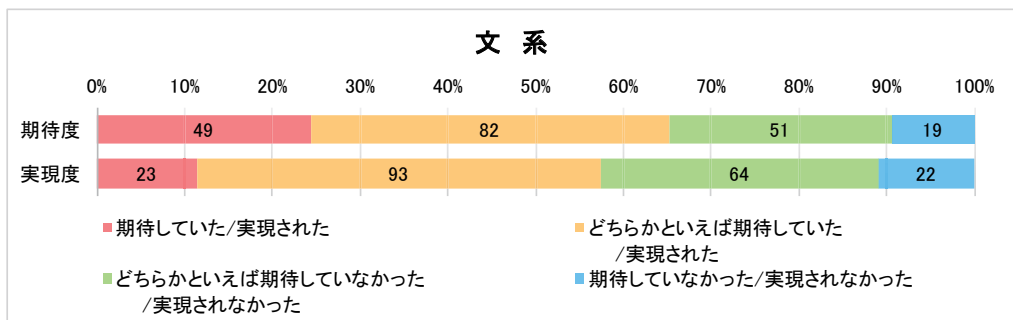
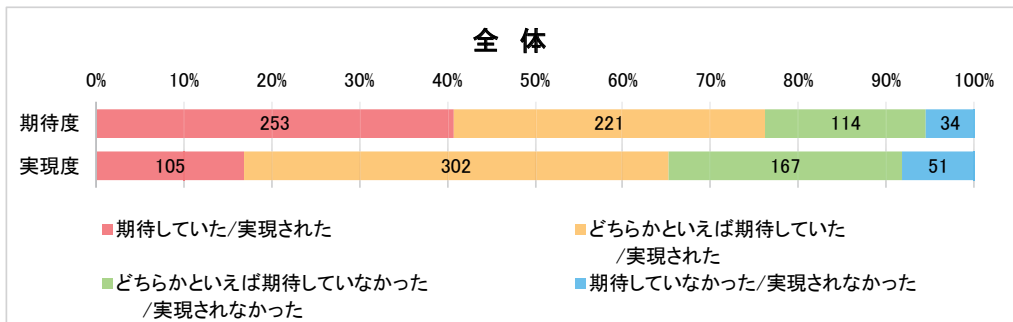
Q.48 あなたは入学当初、全学共通科目において「専門分野で基礎となる学力」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.49 Q.48 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図 4 0 「専門分野で基礎となる学力」を得ることへの期待と実現度>



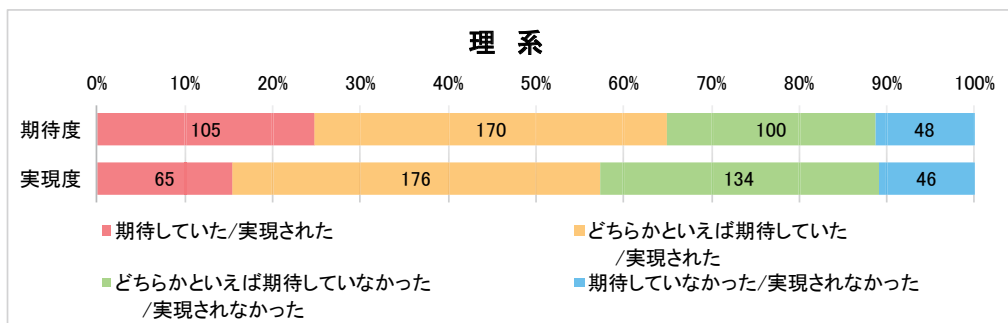
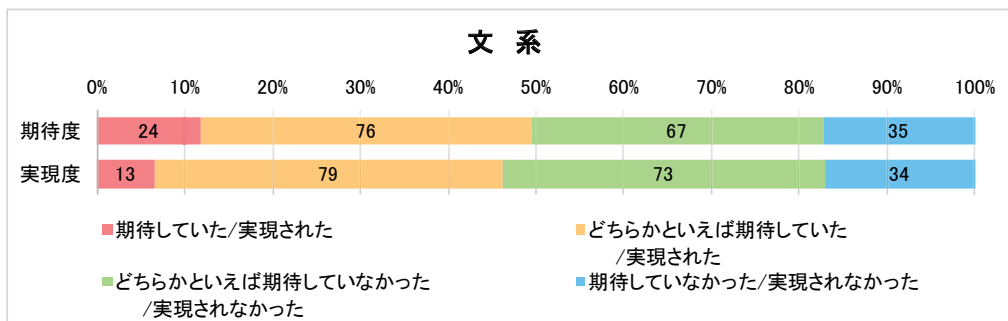
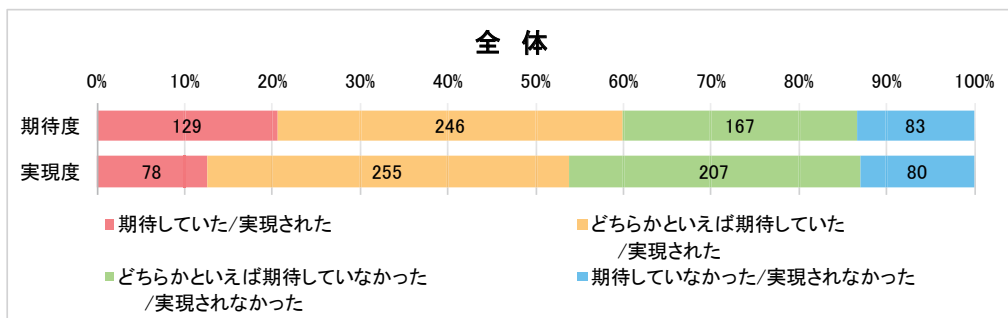
Q.50 あなたは入学当初、全学共通科目において「実用的な知識・技能」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.51 Q.50 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図4-1 「実用的な知識・技能」を得ることへの期待と実現度>



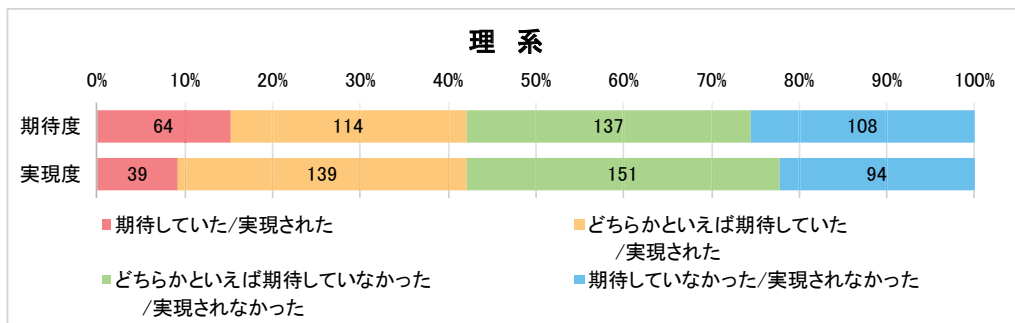
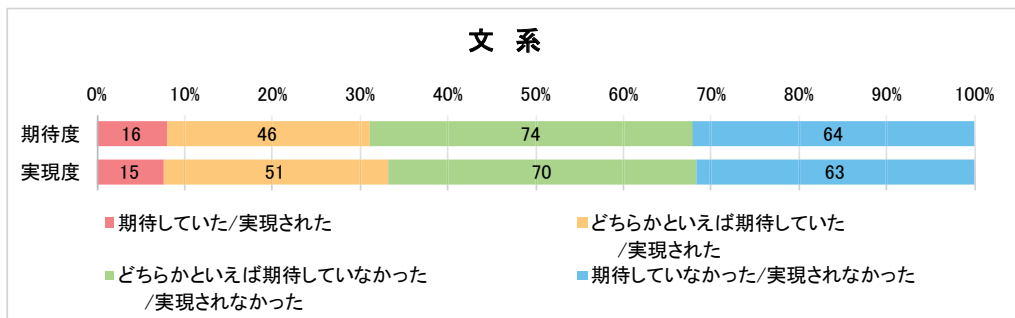
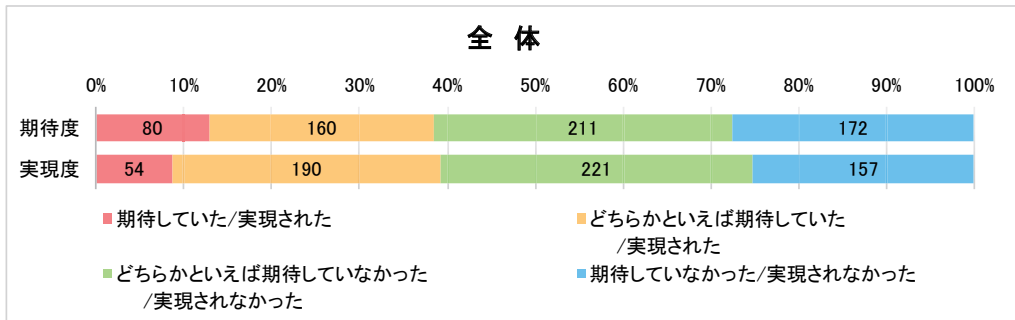
Q.52 あなたは入学当初、全学共通科目において「コミュニケーション能力」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.53 Q.52 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図4-2 「コミュニケーション能力」を得ることへの期待と実現度>



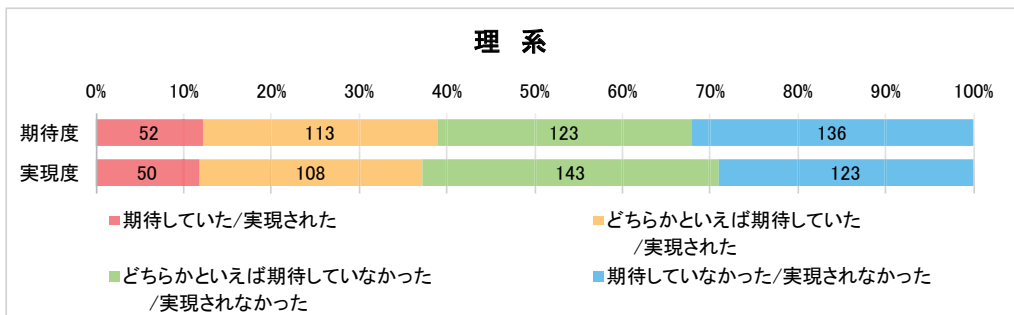
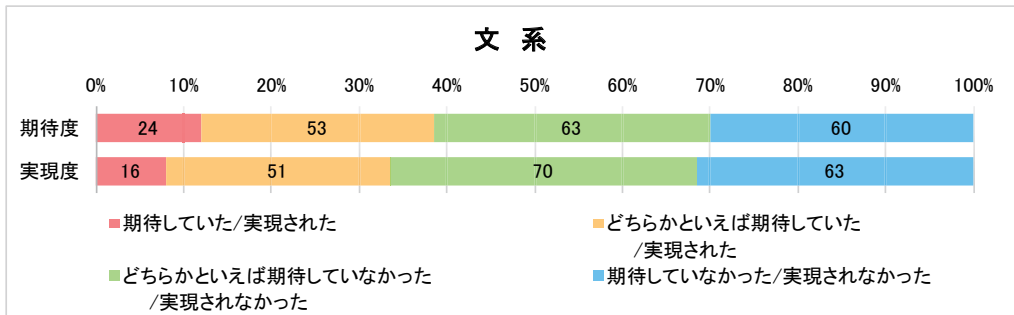
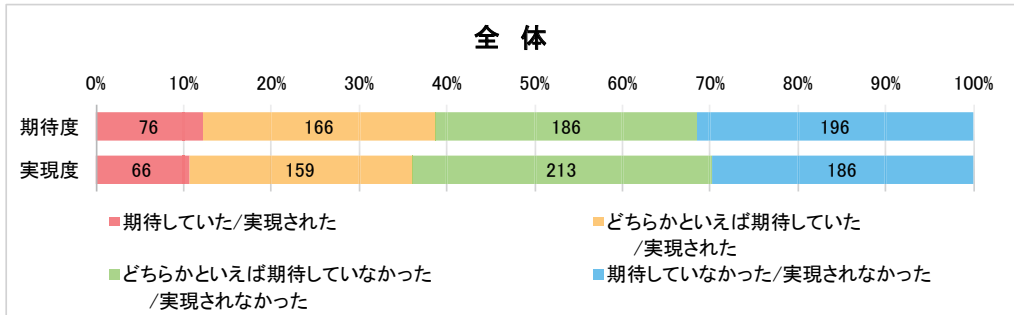
Q.54 あなたは入学当初、全学共通科目において「教員との交流」を期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.55 Q.54 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図 4 3 「教員との交流」への期待と実現度>



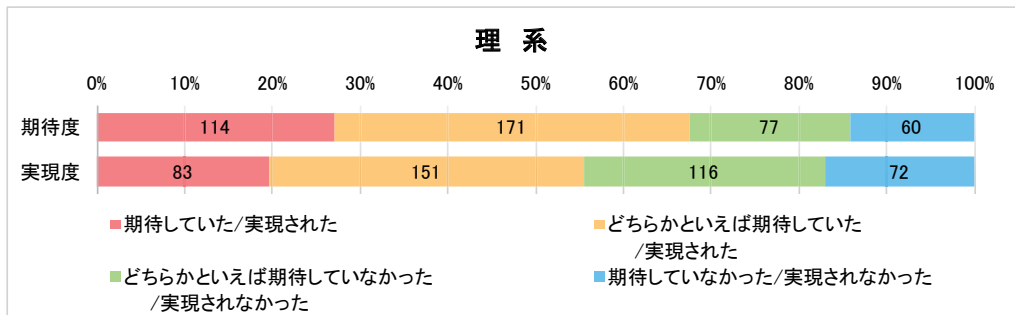
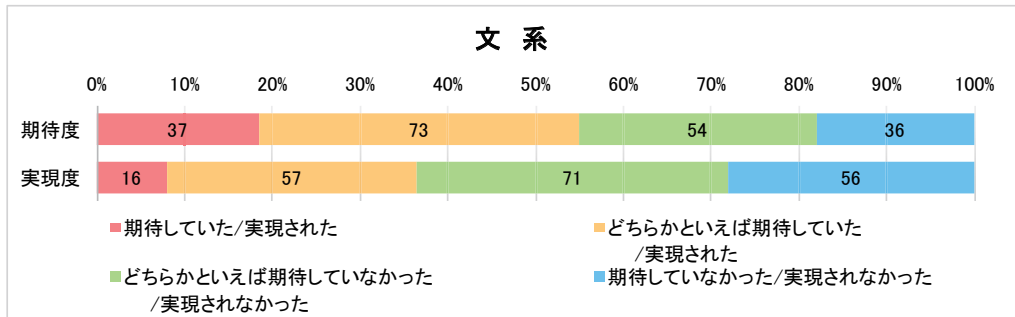
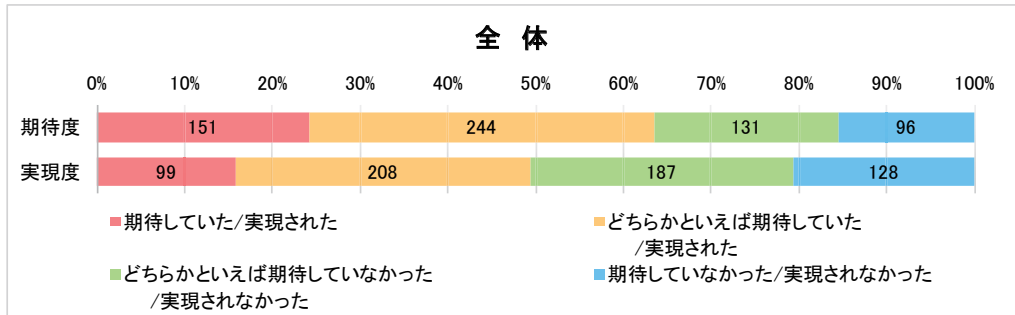
Q.56 あなたは入学当初、全学共通科目において「学生どうしの交流」を期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.57 Q.56 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

< 図 4 4 「学生どうしの交流」への期待と実現度 >



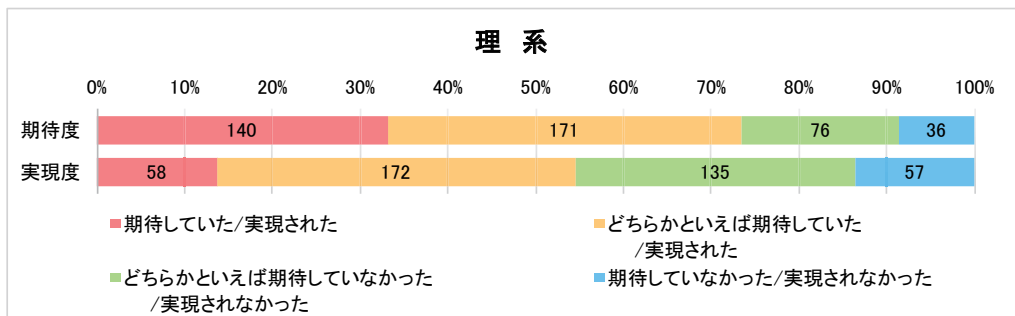
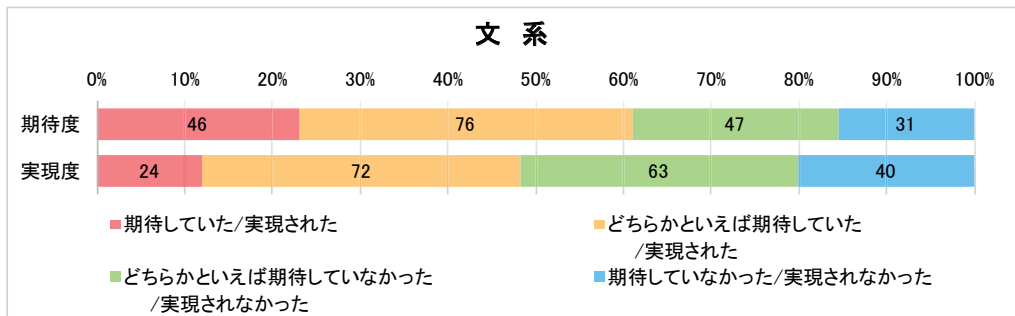
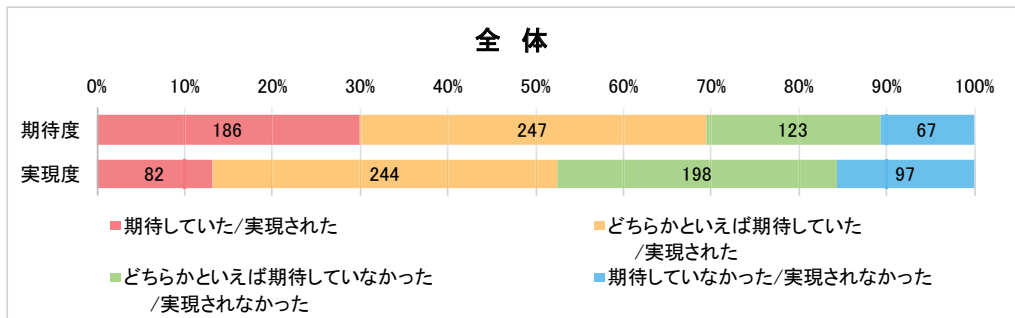
Q.58 あなたは入学当初、全学共通科目において「将来の研究分野や進路を決める手がかり」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.59 Q.58 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

<図 4 5 「将来の研究分野や進路を決める手がかり」を得ることへの期待と実現度>



Q.46～Q.59において、全学共通科目に関連する7項目について、入学当初の期待度と、それに対する現在の実現度を尋ねた。図の棒グラフで、「期待していた」+「どちらかといえば期待していた」の割合、その期待に対して「実現された」+「どちらかといえば実現された」の割合をみると、

「専門以外の幅広い知識・教養」では期待 87%、実現 65%

「専門分野で基礎となる学力」では期待 76%、実現 65%

「将来の研究分野や進路を決める手がかり」期待 70%、実現 53%

の3項目で期待が大きく、また実現されたとの意識も高い。

反対に、

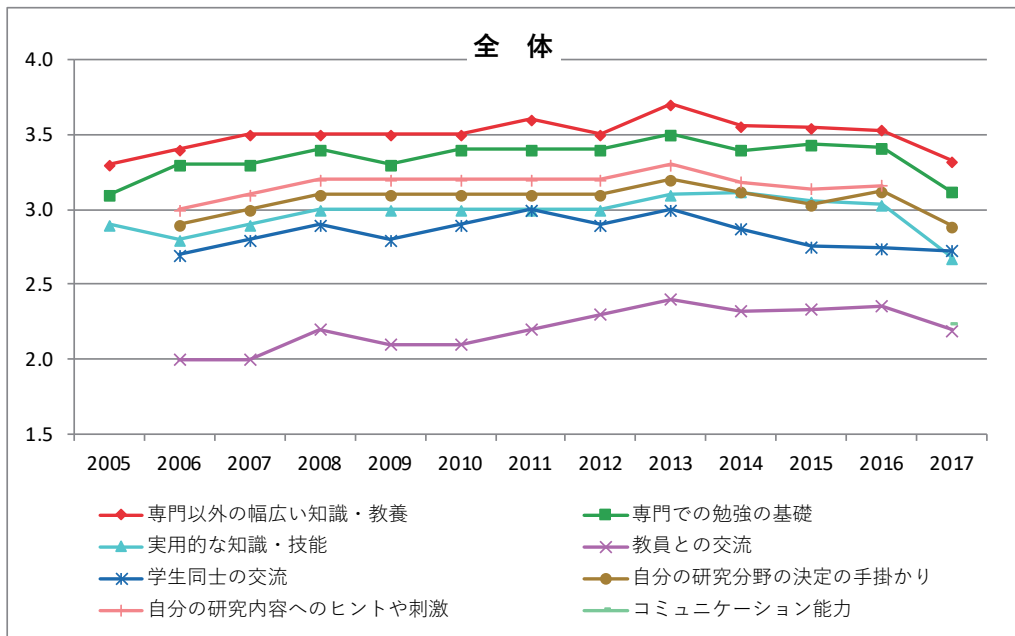
「コミュニケーション能力」では 期待 39%、実現 39%

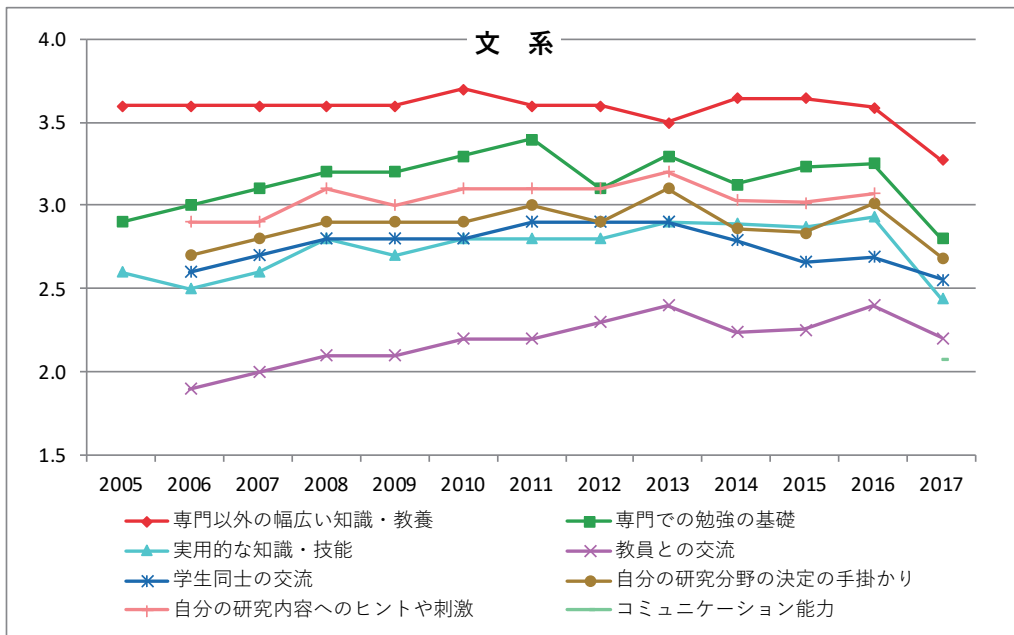
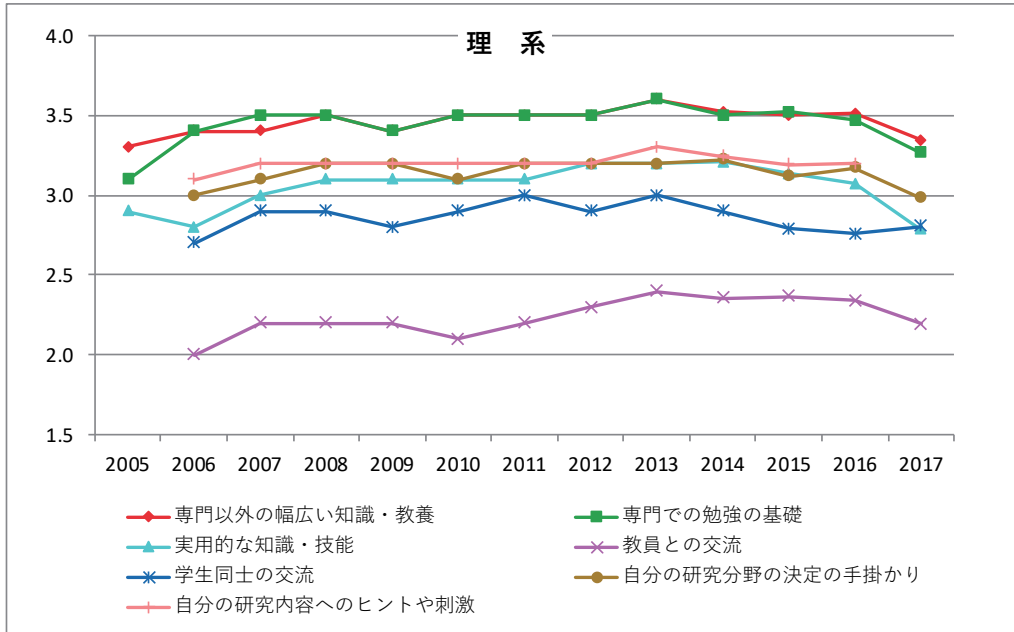
「教員との交流」では期待 39%、実現 36%

の2項目では、学生の期待も低く、実現意識も低いという結果になった。

◆以下のグラフは全学共通科目に関する期待度を数値化し、それぞれの年度で平均値を算出している。「期待していた」を4とし、最後の「期待していなかった」を1とした。

<図46 全学共通科目に関する期待度 経年変化>





※「コミュニケーション能力」は H29 年度からの新規項目 「自分の研究内容へのヒントや刺激」は H29 年度なし

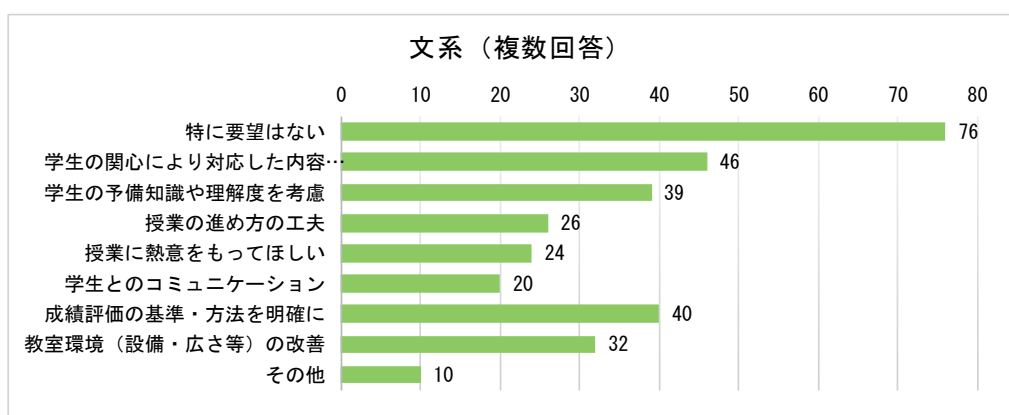
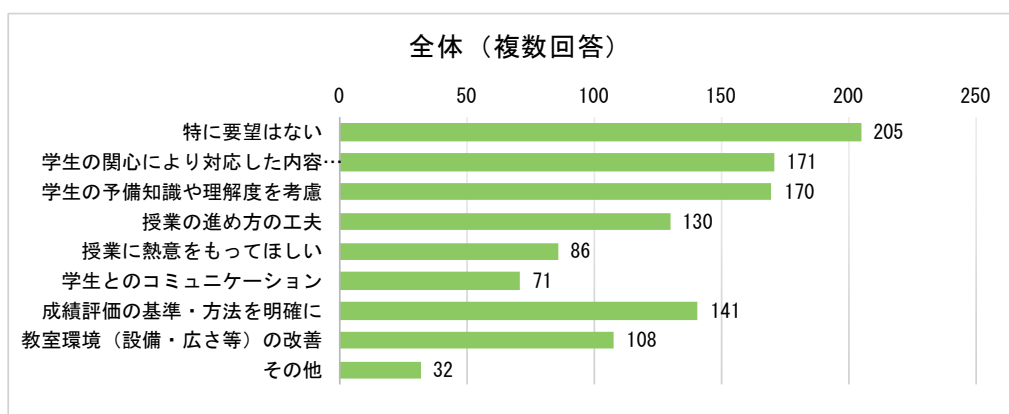
これらの項目は、毎年の進級時アンケートで継続して質問している。図 46 には、全体、文系、理系の各群で 2005 年度以降の経年変化を図示している。各項目に対する期待度の大きさ、実現度とも、例年とほぼ同じ傾向である。しかし不思議なことに、今年の調査では期待度がいずれの項目でも低下している。今年の調査では Q.07～Q.11 でも学習意欲が全体に低下しており、Q.46～Q.59 の期待度にも同じような学生意識の変化が表れているのかも知れない。

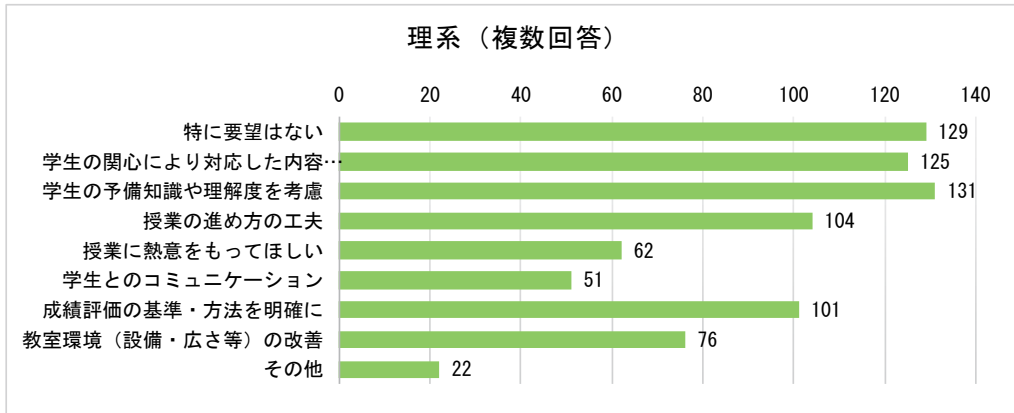
1.1. 教養・共通教育についての意見

Q.60 今後の全学共通科目に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

- ①特に要望はない ②学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
 ③学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい ④授業の進め方をもっと工夫してほしい
 ⑤授業にもっと熱意をもってほしい ⑥学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
 ⑦成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい ⑧教室環境(設備・広さなど)を改善してほしい
 ⑨その他(記述回答)

<図47>

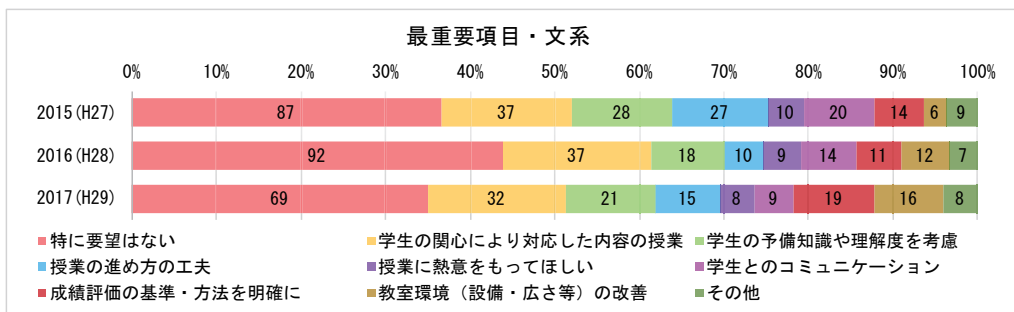
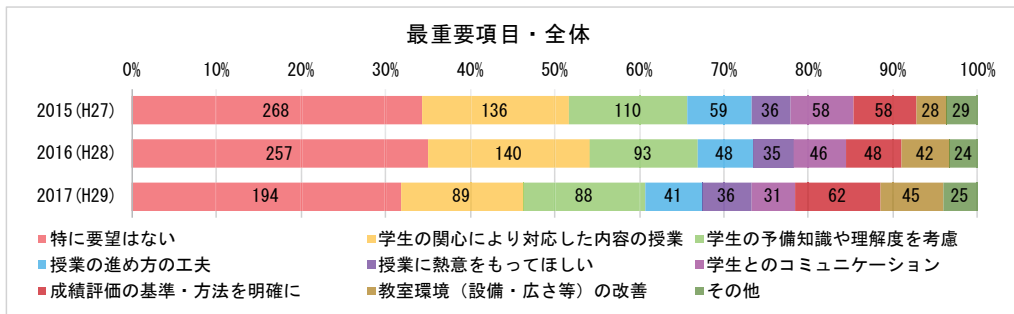


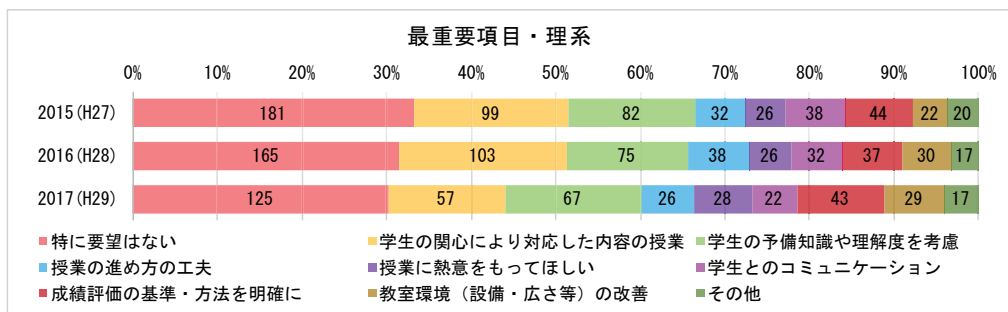


Q.61 Q.60 で選択したもののうち、最も重要なものを選んでください。

- ①特に要望はない ②学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- ③学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい ④授業の進め方をもっと工夫してほしい
- ⑤授業にもっと熱意をもってほしい ⑥学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- ⑦成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい ⑧教室環境(設備・広さなど)を改善してほしい
- ⑨その他（記述回答）

<図48>





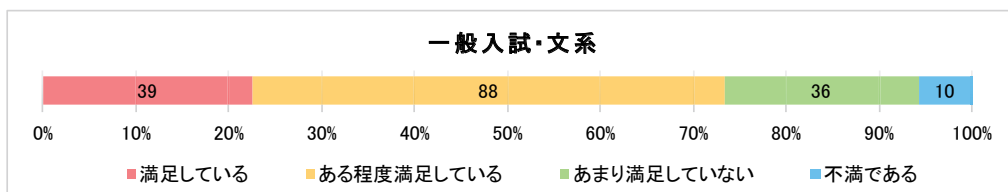
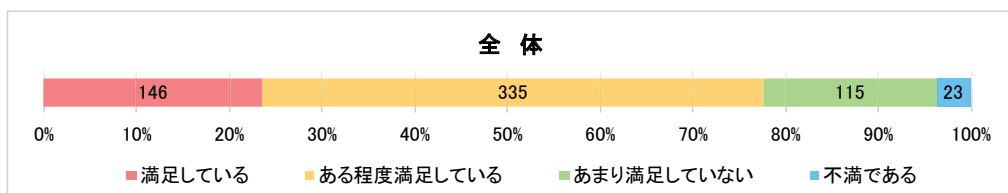
この項目についても毎年質問して、経年変化をみている。図 47 は改善要望を複数回答で尋ねた結果の度数分布を示している。全体としては「特になし」の回答数が増え、年と共に次第に減少している。特に理系では「特になし」以外の項目でも多くの要望があり、学生の関心や理解度に考慮をもとめる要望や、成績評価に関する要望が多数ある。

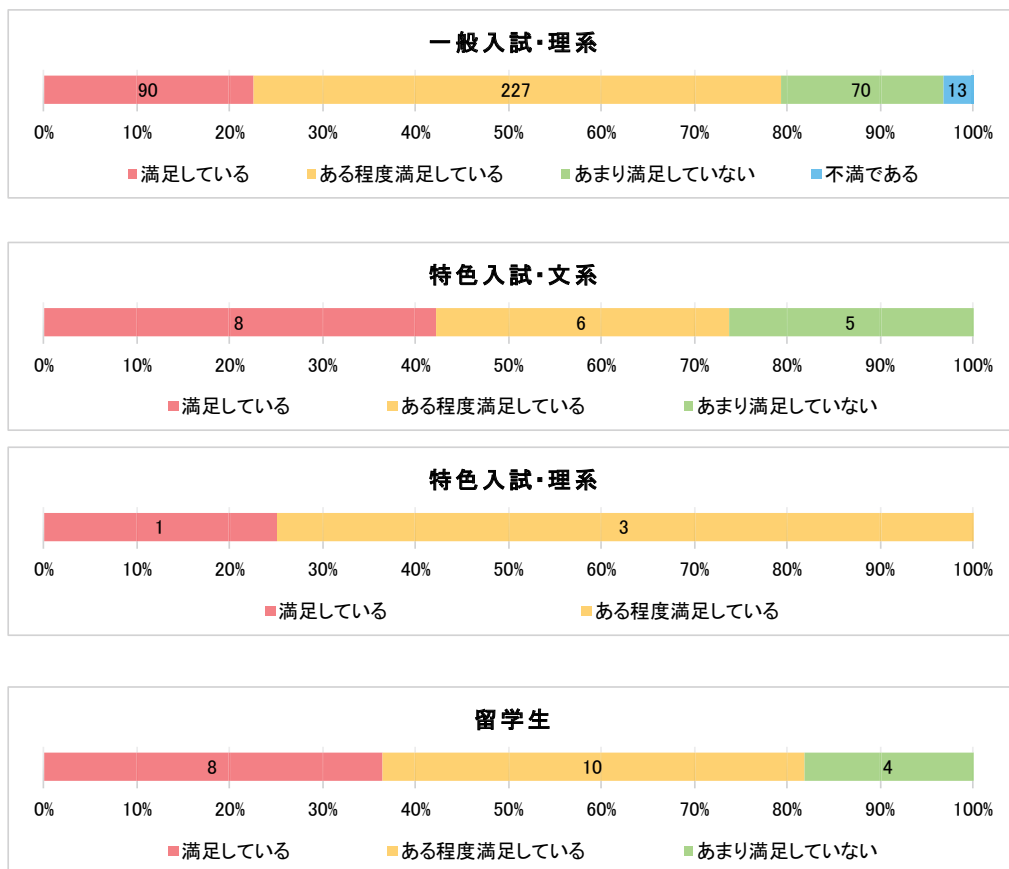
図 48 は、要望の中で最重要な項目と指摘された項目の割合を、2015 年から 3 年間について図示したものである。文系、理系とも「成績評価の基準・方法を明確に」の要望が増加する（全体：7.4%→6.5%→10.1%）傾向にあることが分かる。前述 Q.31、Q.32 での成績評価への納得度と納得できない理由の質問でも、基準の明確化や公正性をもとめる声が増加していた。後述するように、成績評価への納得度は、教養・共通教育全体に対する満足度に直結していることから、今後のさらなる対応が求められる。

Q.62 この 1 年間に受けた全学共通教育を総合的に判断して、学んだことに満足していますか。

- ①満足している ②ある程度満足している ③あまり満足していない ④不満である

< 図 4 9 >

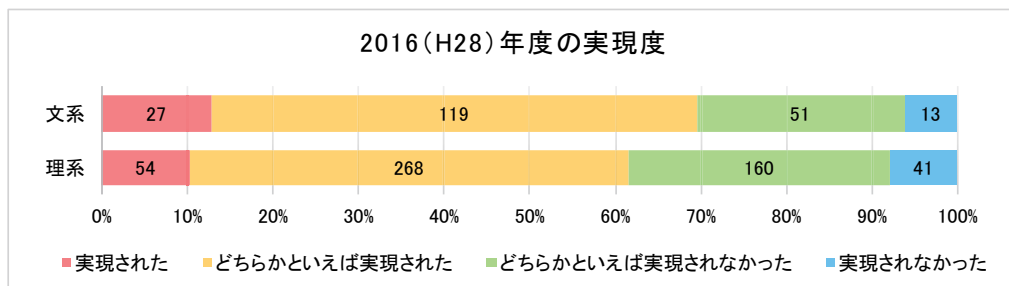




アンケートの最後に、1回生の1年間に受けた教養・共通教育を振り返っての満足度を尋ねた。「満足している」「ある程度満足している」の肯定的意見は全体で78%あり、高いレベルにあると言える。一般文系(73%)よりも一般理系(79%)の方が満足度はやや高いという結果である。留学生の区分でも80%以上の学生が肯定的意見であり、特に「満足している」の割合が36%と大きいことは好ましい結果である。

質問がやや異なるが昨年度(2016年度)に行ったアンケートで、類似した質問「全学共通教育への期待は実現されたか」に対する結果を参考図として掲載しておく。

<図50 参考図>



次に、学生の満足度に影響を与える因子を検討するため、他の質問項目との関連を調べて表 6 に掲載した。この解釈にはいろいろな見方ができるが、3.1 以上の高い満足度を与える項目（満足度の全体平均値は 2.98）と、関連を調べた各項目で①→④（⑤）の高位→低位により、満足度が明確に減少する項目に着目した。このような観点からすると、「学習意欲」、「成績評価に対する納得度」の項目では、高位の①で 3.2~3.3 の高い満足度を示し、かつ下位の群になるに従って、明確に満足度が低下していく。これらの項目と関連しているであろう「志望」や「専門との一致度」の項目においても、やや変化は緩慢になるものの同様の傾向が見られる。一方、「単位」、「正課授業時間」、「時間外学習時間」の項目とは相関がみられるものやや弱いという結果である。

強い学習意欲が学習行動を伴って満足度に繋がる、ということは予想できることであるが、「成績評価に対する納得度」も学生が満足感を得るために強い効果をもつことが認められた。

$$\text{満足度} = 4 \times \text{①満足している} + 3 \times \text{②ある程度満足している} + 2 \times \text{③あまり満足していない} + \text{④不満である}$$

<表 6 >

	志望 Q.04	一致度 Q.06	意欲 Q.09	単位 Q.22	納得度 Q.31	正課授業 Q.38	授業外学習 Q.42
①	3.14	3.19	3.32	3.09	3.22	2.92	3.10
②	3.08	2.96	3.07	2.98	2.90	3.07	3.30
③	2.92	2.49	2.89	2.75	2.52	3.01	2.97
④	2.65	2.62	2.60	2.57	2.21	2.63	2.94
⑤	--	--	1.73	2.72	--	--	2.68

注) 満足度の平均値は 2.98、表中①~④（⑤）の回答群の意味は以下に記載の通り

Q.04 志望 (①: はっきり決めていた、②: 大まかには決めていた、③: いくつかあったが、どれとは決めていなかった、④: あまり決めていなかった)

Q.06 一致度 (①: よく一致している、②: まあ一致している、③: どちらかという一致していない、④: あまり一致していない)

Q.09 意欲 (①: 非常に意欲あり、②: まあまあ意欲あり、③: どちらともいえない、④: あまり意欲なし、⑤: まったく意欲なし)

Q.22 単位 (①: 単位 \geq 60、②: 60 > 単位 \geq 55、③: 55 > 単位 \geq 50、④: 50 > 単位 \geq 45、⑤: 45 > 単位 \geq 40)

Q.31 成績納得度 (①: 納得している、②: どちらかといえば納得している、③: どちらかといえば納得できない、④: 納得できない)

Q.38 正課授業時間 (①: 30 時間程度、②: 25 時間程度、③: 20 時間程度、④: 15 時間程度)

Q.42 授業外学習時間 (①: 20 時間程度、②: 15 時間程度、③: 10 時間程度、④: 5 時間程度、⑤: 0~2 時間程度)

12. まとめ

今年度の2回生進級時アンケートでは、従来のアンケートの一部を継承して経年変化の追跡を可能にしながら、内容を抜本的に改訂した。入試種別、学部別の解析群を設定し、全学、文系、理系の括りの他、必要に応じてより細かな解析区分を採用することにより学生動向の要因についての手がかりを得る努力をした。また、アンケートの本来の目的である教育改善に資するという観点を強く意識して解析した。

その結果、想定していたように

志望意識 → 学習意欲 → 学習行動 → 学習成果 → 向上感（満足度）

のスキームは確かに成立している。教育効果の向上を図るためにはこの正しい流れを維持し拡大する施策を行うとともに、改善点を早期に把握して負のスキームになる芽を摘み取る努力がもとめられる。本アンケート調査の結果から、次のような点を考慮することが重要である。

- ・入学時、将来活躍したい分野（志望）についての学生意識は学部により大きな差があるが、入学後のさまざまな経験から次第に自身の将来像が明確になる傾向が見られる。それに伴い志望意識と専門との一致度も次第に改善している。しかしながら入学後の学習意欲の低下は深刻である。今回、学部差が見いだされたことから、各学部で教育体系、カリキュラムの再点検をされるとともに、将来に向けた学習の動機付けとなる情報を、入学前後に学生に積極的に提供されることも必要である。
- ・特に新生にとって、生活環境の激変や大学での授業、1回生前期のカリキュラムは、学習意欲の低下に強い影響を与えていることが推測される。
- ・外国人講師による英語授業、E科目の設定等、英語教育の改革が進められているにも関わらず、英語能力に向上感をもてない学生が多い。現状からもう一步踏み込み、向上感をもてる英語学習を実現するための努力がもとめられる。
- ・ILASセミナーは例年高い評価を得ている。抽選に外れて受講できない学生を少なくする対策を講じることが、最近、75%程度で高止まりしている受講許可率を上げることに効果的である。
- ・1回生で60単位以上、特に前期での取得単位数は明らかに過剰であり、卒業単位数、標準修業年数からみても異常状態にある。カリキュラム、履修指導、CAP制等を再度検討し、速やかに改善策を講じる必要がある。
- ・成績評価について、評価基準の明確性、公平性をもとめる声が理系学生で大きくなっている。成績評価の基準や科目間・クラス間の不公平感を改善することが求められる。これはGPA制度の導入が教育改善に資するとされた主要な論点の一つである。
- ・1回生で運動時間が不足している学生が多く、健康管理についてガイダンス等でより強くアピールすることが必要である。また、本学的环境や運動施設は貧弱と言わざるを得ない。インフラの整備は困難であるが、将来のキャンパス計画の議論に本資料を提供することが重要だろう。
- ・かねてから言われているように、授業外学習時間が明らかに不足している。授業科目数や取得単位数を増加させることよりも、自習を喚起する授業を推進することが、教育の量から質への転換を促し、教育効果を上げる道筋になると思われる。
- ・教養・共通教育への満足度は、「学習意欲」と「成績」のみならず、「成績評価への信頼性」から形成される。教育改善の議論においては、この点にも注意を払うべきである。

第5章 大学教育での向上感 において設けた Q.12~Q16 の質問は、各学部におけるカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに掲げられている内容である。2回生進級時アンケートは、入学後の一つの通過点でのモニターという位置づけにある。卒業時アンケート等で、大学教育4年間の総括をする必要があることを指摘しておきたい。

なお、本アンケートで示唆された重要項目については、教務データ等のより正確な資料をもとに検証した上で、アンケートの指摘が事実であれば具体的な対策を講じられるように切に願うものである。

今後は今回判明したアンケート調査の欠点を改善し、さらに提出率を上げる方策を考えながら実施していきたい。最後に、長文のアンケートに耐えて回答し貴重なデータを提供していただいた学生諸君に厚く御礼を申し上げます。また、膨大なデータを的確に解析していただき国際高等教育院事務部の皆様に感謝を申し上げておきたい。

平成 29 年度 2 回生進級時アンケート

(実施期間：2017/04/04 - 2017/06/30)

Q.01 あなたが京都大学に入学した入試区分は次のどちらですか。

- ①一般入試 ②特色入試 ③外国人留学生特別選抜

Q.02 あなたの学部を教えてください。

- ①総合人間学部 ②文学部 ③教育学部 ④法学部 ⑤経済学部 ⑥理学部 ⑦医学部（医学科）
⑧医学部（人間健康科学科） ⑨薬学部（薬学科） ⑩薬学部（薬科学科） ⑪工学部 ⑫農学部

Q.03 あなたが入学したとき、自分が将来活躍したい分野（希望分野）を決めていましたか。

- ①はっきり決めていた ②大まかには決めていた ③いくつかあったが、どれとは決めていなかった
④あまり決めていなかった

Q.04 今現在、自分が将来活躍したい分野（希望分野）を決めていますか。

- ①はっきり決めている ②大まかには決めている ③いくつかあるが、どれとは決めていない
④あまり決めていない

Q.05 入学してから現在までに、その希望分野は変わりましたか。

- ①変わっていない ②変わった

Q.06 現在のあなたの希望分野と学部でこれから学ぼうとする専門分野は、どの程度一致していますか。

- ①よく一致している ②まあ一致している ③どちらかという一致していない
④あまり一致していない

Q.07 入学当初から現在までに、あなたの学習意欲はどのように変化しましたか。各時期について、次の5つから選択してください。なお、この質問は Q.7~Q.11（入学当初、前期半ば、後期開始、後期半ば、現在）まであります。

<入学当初の時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.08<前期半ばの時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.09<後期開始の時期>

- ①非常に意欲あり ②まあまあ意欲あり ③どちらともいえない ④あまり意欲なし
⑤まったく意欲なし

Q.10<後期半ばの時期>

- ①非常に意欲あり
- ②まあまあ意欲あり
- ③どちらともいえない
- ④あまり意欲なし
- ⑤まったく意欲なし

Q.11<現在>

- ①非常に意欲あり
- ②まあまあ意欲あり
- ③どちらともいえない
- ④あまり意欲なし
- ⑤まったく意欲なし

Q.12 入学後1年間の授業を受けて、人間社会や自然についての幅広い視野と教養は、どの程度、向上したと思いますか。

- ①大いに向上した
- ②ある程度向上した
- ③あまり向上しなかった
- ④全く向上しなかった

Q.13 1年間で、あなた自身が問題を発見し、論理的に解決法を考える力は、どの程度、向上したと思いますか。

- ①大いに向上した
- ②ある程度向上した
- ③あまり向上しなかった
- ④全く向上しなかった

Q.14 1年間で、自分の考えを表現し、相手の意見を理解するコミュニケーション能力は、どの程度、向上したと思いますか。

- ①大いに向上した
- ②ある程度向上した
- ③あまり向上しなかった
- ④全く向上しなかった

Q.15 1年間で、自ら考え、主体的に行動する能力は、どの程度、向上したと思いますか。

- ①大いに向上した
- ②ある程度向上した
- ③あまり向上しなかった
- ④全く向上しなかった

Q.16 1年間で、あなたの英語の能力はどの程度、向上したと思いますか。

- ①大いに向上した
- ②ある程度向上した
- ③あまり向上しなかった
- ④全く向上しなかった

Q.17 1回生でILASセミナーを履修しましたか。

- ①履修した
- ②予備登録をしたが履修しなかった
- ③予備登録をしなかった

Q.18 Q.17で「履修した」を選んだ方へ：セミナーで学習した知識や経験について満足していますか。

- ①とても満足している
- ②どちらかという満足している
- ③どちらかという満足していない
- ④満足していない

Q.19 Q.17で「予備登録をしたが履修しなかった」を選んだ方へ：履修しなかった理由は何ですか。

- ①抽選に外れてしまった
- ②希望順位の低い科目だったのでやめた
- ③履修できない曜日・時限だった
- ④何度か授業に出たが興味をもてなかった
- ⑤何度か授業に出たが他の活動と両立できなかった
- ⑥その他（記述回答）

Q.20 Q.17で「予備登録をしなかった」を選んだ方へ：予備登録をしなかった理由は何ですか。

- ①履修したいと思わなかった
- ②空いている曜日・時限に希望する科目がなかった
- ③予備登録に間に合わなかった、または忘れた
- ④忙しくて履修できそうになかった
- ⑤その他（記述回答）

Q.21 前期・後期の各学期の中間に「履修取り消し期間」がありますが、これは単位を取得する意志がなくなった人が不受験になり GPA が低くなることを防ぐために設けられた制度です。このことを理解していますか。

- ①よく理解している
- ②まあまあ理解している
- ③あまり理解していない
- ④まったく理解していない
- ⑤わからない（関心がない）

Q.22 あなたは1回生の間に何単位を取得しましたか。全学共通科目に加えて、専門基礎科目、専門科目を含む合計を、1回生終了時に受けとった成績表で確認してお答えください。

- ①単位 \geq 60
- ②60 $>$ 単位 \geq 55
- ③55 $>$ 単位 \geq 50
- ④50 $>$ 単位 \geq 45
- ⑤45 $>$ 単位 \geq 40
- ⑥40 $>$ 単位 \geq 35
- ⑦35 $>$ 単位 \geq 30
- ⑧30 $>$ 単位 \geq 25
- ⑨25 $>$ 単位 \geq 20
- ⑩20 $>$ 単位

Q.23 Q.22について、その取得単位数のうち、全学共通科目について「前期」の取得単位数はどれくらいですか。

- ①単位 \geq 30
- ②30 $>$ 単位 \geq 25
- ③25 $>$ 単位 \geq 20
- ④20 $>$ 単位 \geq 15
- ⑤15 $>$ 単位 \geq 10
- ⑥10 $>$ 単位

Q.24 Q.22について、その取得単位数のうち、全学共通科目について「後期」の取得単位数はどれくらいですか。

- ①単位 \geq 30
- ②30 $>$ 単位 \geq 25
- ③25 $>$ 単位 \geq 20
- ④20 $>$ 単位 \geq 15
- ⑤15 $>$ 単位 \geq 10
- ⑥10 $>$ 単位

Q.25 1回生の間に単位を取得した「人文・社会科学科目群」の科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100%
- ②約80%
- ③約60%
- ④50%以下

Q.26 1回生の間に単位を取得した「自然科学科目群」の科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100%
- ②約80%
- ③約60%
- ④50%以下

Q.27 1回生の間に単位を取得した「外国語科目群」の英語科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100%
- ②約80%
- ③約60%
- ④50%以下

Q.28 1回生の間に単位を取得した「外国語科目群」の初修外国語科目について、あなたの授業出席率はどれくらいですか。

- ①ほぼ100%
- ②約80%
- ③約60%
- ④50%以下

Q.29 あなたの1回生（前期＋後期）終了時のGPAはどのレベルですか。1回生終了時に受けとったあなたの成績表で確認してお答えください。（非公開）

- ① $GPA \geq 4.0$ ② $4.0 > GPA \geq 3.5$ ③ $3.5 > GPA \geq 3.0$ ④ $3.0 > GPA \geq 2.5$ ⑤ $2.5 > GPA \geq 2.0$
⑥ $2.0 > GPA \geq 1.5$ ⑦ $1.5 > GPA$

Q.30 あなたが1回生後期（2016年12月）に受けたTOEFL-ITPのスコアはどのレベルでしたか。（非公開）

- ①スコア ≥ 550 ② $547 \geq \text{スコア} \geq 503$ ③ $500 \geq \text{スコア} \geq 450$ ④ $447 \geq \text{スコア}$

Q.31 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします：全体として自分の成績評価に納得していますか。

- ①納得している ②どちらかといえば納得している ③どちらかといえば納得できない
④納得できない

Q.32 Q.31で「どちらかといえば納得できない」又は「納得できない」を選んだ方へ：成績評価に納得できなかった理由は何ですか。次の中からあてはまる全てのものにチェックをつけてください。

- ①成績評価が厳しすぎる ②成績評価が甘すぎる
③成績評価の基準や方法が学生に対して明確に示されていなかった
④成績評価の基準や方法が不公正である ⑤その他（記述回答）

Q.33 Q.32で選んだもののうち、最も重要なもの1つを選択してください。

- ①成績評価が厳しすぎる ②成績評価が甘すぎる
③成績評価の基準や方法が学生に対して明確に示されていなかった
④成績評価の基準や方法が不公正である ⑤その他（記述回答）

Q.34 平均して1週間に何時間程度、運動（スポーツ、散歩、ジョギング、サイクリング等）をしていますか。

- ①ほぼ0から1時間程度 ②2～3時間程度 ③5時間程度 ④7時間程度 ⑤10時間程度
⑥15時間程度 ⑦20時間程度 ⑧25時間程度 ⑨25時間以上

Q.35 あなたが運動をするとき、主にどこの場所を使用しますか。

- ①体育館やグラウンド等の大学施設 ②体育館やグラウンド等の公共スポーツ施設
③公園や道路、河原等の公共あるいは自然環境 ④ジムやスポーツセンター等の民間商業施設
⑤自宅、アパート等 ⑥その他

Q.36 この1年間で、授業以外に大学の体育館やグラウンドをどれくらい利用しましたか。

- ①全く利用していない ②年に数回利用した ③月に数回利用した ④週に数回利用した
⑤ほとんど毎日利用した

Q.37 この1年間に何冊の本を読みましたか。ただし、授業に用いる教科書や参考書、マンガは除きます。

※回答は整数で記入してください。単位の冊は不要です。

Q.38 1 回生後期の授業期間中のあなたの平均的な1週間（土曜、日曜を含む 1 週間=168 時間）で、次の Q.38~Q.45 の各項目に該当する活動時間を教えてください。平均的な平日と休日の合計を計算し、その合計がほぼ 168 時間になるように調整してください。

なお、活動時間の項目は、正課の授業、通学、クラブ・サークル等の課外活動、アルバイト、授業の予習・復習・レポート作成等、授業とは直接関係のない学習や読書、睡眠、その他 です。

※回答は整数で記入してください。単位の時間は不要です。

<正課の授業に出席する時間>

Q.39 <通学に要する時間>

Q.40 <クラブ・サークル等の課外活動時間>

Q.41 <アルバイトに要する時間>

Q.42 <授業の予習・復習・レポート作成等の時間>

Q.43 <授業とは直接関係のない学習や読書の時間>

Q.44 <睡眠時間>

Q.45 <その他の時間>

Q.46 Q.46~Q.59 までは、全学共通科目に関する7つの項目について、入学当初の期待度と、それに対する現在の実現度をお尋ねします：あなたは入学当初、全学共通科目において「専門以外の幅広い知識・教養」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
④期待していなかった

Q.47 Q.46 について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
④実現されなかった

Q.48 あなたは入学当初、全学共通科目において「専門分野で基礎となる学力」を得ることを期待していませんか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.49 Q.48について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.50 あなたは入学当初、全学共通科目において「実用的な知識・技能」を得ることを期待していませんか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.51 Q.50について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.52 あなたは入学当初、全学共通科目において「コミュニケーション能力」を得ることを期待していませんか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.53 Q.52について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.54 あなたは入学当初、全学共通科目において「教員との交流」を期待していませんか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.55 Q.54について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された ②どちらかといえば実現された ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.56 あなたは入学当初、全学共通科目において「学生どうしの交流」を期待していませんか。

- ①期待していた ②どちらかといえば期待していた ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.57 Q.56について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された
- ②どちらかといえば実現された
- ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.58 あなたは入学当初、全学共通科目において「将来の研究分野や進路を決める手がかり」を得ることを期待していましたか。

- ①期待していた
- ②どちらかといえば期待していた
- ③どちらかといえば期待していなかった
- ④期待していなかった

Q.59 Q.58について、1年間の学習結果としてその期待は実現されましたか。

- ①実現された
- ②どちらかといえば実現された
- ③どちらかといえば実現されなかった
- ④実現されなかった

Q.60 今後の全学共通科目に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるものすべてにチェックをつけてください。

- ①特に要望はない
- ②学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- ③学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- ④授業の進め方をもっと工夫してほしい
- ⑤授業にもっと熱意をもってほしい
- ⑥学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- ⑦成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- ⑧教室環境(設備・広さなど)を改善してほしい
- ⑨その他(記述回答)

Q.61 Q.60で選択したもののうち、最も重要なものを選んでください。

- ①特に要望はない
- ②学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- ③学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- ④授業の進め方をもっと工夫してほしい
- ⑤授業にもっと熱意をもってほしい
- ⑥学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- ⑦成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- ⑧教室環境(設備・広さなど)を改善してほしい
- ⑨その他(記述回答)

Q.62 この1年間に受けた全学共通教育を総合的に判断して、学んだことに満足していますか。

- ①満足している
- ②ある程度満足している
- ③あまり満足していない
- ④不満である

Q.63 最後に、今後の全学共通科目の改善点や要望があれば、要点を簡潔に記入してください(自由記述)。